

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画



倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画

平成 20 年 3 月

倉 敷 市

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画 目 次

・計画の目的と対象	1
1．計画策定の目的と背景	1
2．計画策定の体制と手順	1
3．計画の位置づけと対象	2
(1) 計画の位置づけ	2
(2) 計画の対象となる範囲	2
(3) 計画の対象となるサイン	3
整備の基本方針	4
1．サインの整備状況と課題	4
(1) サイン施設の現状	4
(2) 来訪者アンケート調査	12
(3) ワークショップによるサインの現況調査	15
(4) サイン整備の課題	17
2．サイン整備の基本方針	19
(1) サイン整備のコンセプト	19
(2) サイン整備方針	20
サイン機能整備計画	21
1．サインの機能と役割	21
(1) サインの機能	21
(2) 移動経路におけるサインの役割	21
2．サイン配置計画	23
(1) サイン配置の基本方針	23
(2) 誘導ルート・誘導案内拠点の設定	24
(3) サイン施設の配置計画	27
3．表示内容とレイアウト	30
(1) 案内マップの掲載情報	30
(2) 表示面のデザイン	36
(3) 美観地区のサイン施設整備	40
4．関連施設整備	41
(1) 倉敷駅前地下連絡道の案内	41
(2) バリアフリー対応や移動円滑化のための設備の位置サイン	42
(3) 計画対象区域内における誘導ルート以外での施設整備	42
・サイン施設整備計画	43
1．施設デザインの考え方	43
2．案内サイン	44
(1) 行動起点・誘導拠点のサイン（総合案内サイン）	44
(2) 誘導拠点・分岐点のサイン	47
3．誘導サイン	48
(1) 既存サイン施設を活用する箇所でのサイン	48
(2) 施設を新設する箇所でのサイン	49
(3) 商店街など目線の高さでは表示が見つけにくい箇所	50
・サインのメンテナンス	52
(1) 本体施設のメンテナンス	52
(2) 掲載情報の見直し	54
(3) サイン管理体制	56
巻末 参考資料	

．計画の目的と対象

1．計画策定の目的と背景

倉敷駅周辺には、公的施設等へ誘導案内するための公共サインが設置されていますが、現状のサインを計画した当時は、サインの表示や形状に関してバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を盛り込んだ基準などが示されていませんでした。

しかし、平成 6 年のハートビル法（高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律）、平成 12 年の交通バリアフリー法（高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律）及び平成 18 年の新バリアフリー法（高齢者、身体障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律）の施行により、だれもがわかりやすい快適な移動空間の整備や、安全、安心なまちづくりが進められるなか、倉敷駅周辺のサインも、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点からの見直しが必要になっています。

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画では、平成 18 年 3 月に策定された「倉敷市交通バリアフリー基本構想」を踏まえ、バリアフリーさらにはユニバーサルデザインに配慮したサイン整備を目指すとともに、計画策定に当たり、より広く市民、障害者、高齢者、外国人、事業者等の参画を図ることにより、あらゆる利用者の立場に立った検討を行い、だれもが分かりやすく、見やすい、さらに景観にも配慮したサインの整備方針を定めることを目的とします。

なお、整備するサインの表示内容、表示方法、形状等については「倉敷市公共サインガイドライン」に基づき、国等で示されているサインの整備基準レベルをクリアするサイン施設の整備を目指します。

2．計画策定の体制と手順

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画の策定における検討体制としては、学識経験者、高齢者、障害者などに加え、観光・商工関連団体、関連行政機関からなる検討会を設置して検討を進めるとともに、多くの市民に参加いただき、現況のサイン点検やワークショップを実施しました。

また、パブリックコメントによる意見募集により、市民から広くご意見をいただくとともに、倉敷に不案内な観光客等の来訪者に必要な案内誘導のあり方を把握するため、アンケート調査を実施しました。

3．計画の位置づけと対象

(1) 計画の位置づけ

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画は、「倉敷市公共サインガイドライン」に基づき、平成18年3月に策定された「倉敷市交通バリアフリー基本構想」の重点整備地区である倉敷駅周辺地区を対象として、歩行者等の誘導に係るサインの整備を進めるための計画です。

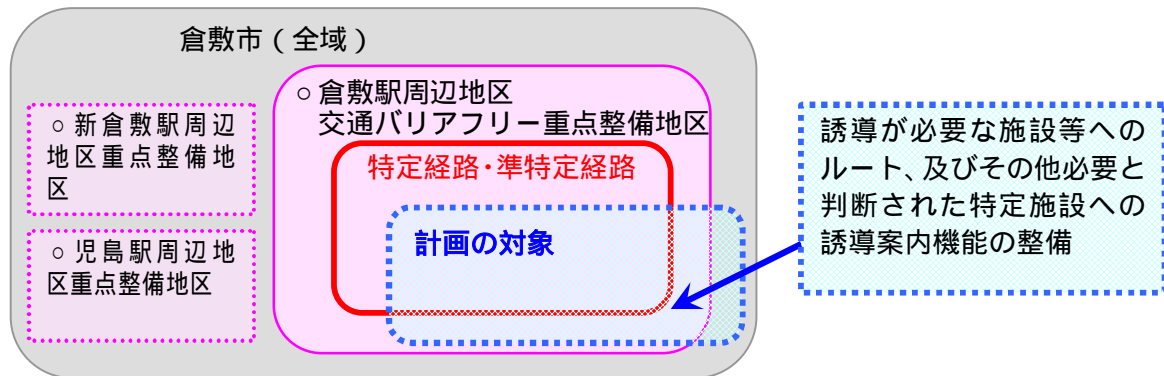


図 整備計画の対象範囲

(2) 計画の対象となる範囲

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画では、重点整備地区内において定めた特定経路及び準特定経路を中心に、順次誘導案内施設の整備を行います。

なお倉敷市では、親しまれてきた名称であるため「倉敷市美観地区」を固有名詞として使用しています。

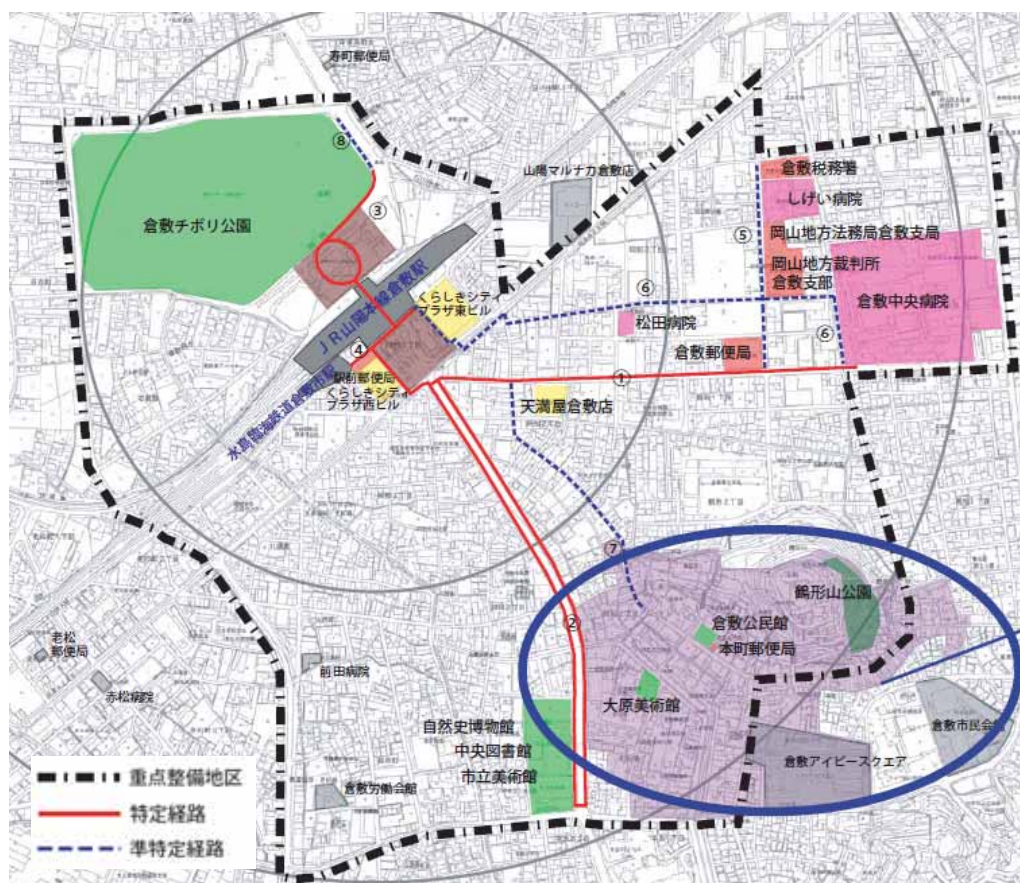


図 倉敷駅周辺地区重点整備地区と特定経路

(3) 計画の対象となるサイン

■サインの種類

誘導案内のためのサインは、以下の4種類があります。

表 サインの種別

案内サイン類	簡潔な表現に工夫された図表等を用いて、諸施設等の位置関係を図解するもの
誘導サイン類	簡潔な施設名等に矢印を併記して、目的場所の方向を指し示すもの
位置サイン類	簡潔な施設名やピクトグラム等を用いて、目的場所の位置を告知するもの
規制サイン類	一般にピクトグラム等を用いて、利用者の行動を規制するもの

現在、倉敷駅周辺で整備されている主な公共サインは、案内サインと誘導サインの2種類です。案内サインは、倉敷駅南口の総合案内サイン（写真 ）と、主要観光施設等への経路上に設置された案内サイン（写真 ）があります。誘導サインは、主として美観地区周辺までの誘導を目的として設置された石造のサイン（写真 ）と、その機能を補完するための誘導サイン表示パネル（写真 ）が設置されています。また、美観地区については景観に配慮したデザインの道標型誘導サイン（写真 ）が設置されています。

案内サイン	
写真	写真
	
周辺案内マップ（約2km四方）と 広域案内マップ（市及び周辺が入る約30km四方）を表示	周辺案内マップ（約1.5km四方） を表示

誘導サイン		
写真	写真	写真
		

■整備計画における対象サイン

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画では、歩行者の安全な移動のための誘導案内施設として、案内マップを表示する案内サインと、移動経路上に設置される誘導サインの2種類を対象とします。

整備の基本方針

1. サインの整備状況と課題

(1) サイン施設の現状

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画の策定にあたり、基本構想で定めた倉敷駅周辺地区重点整備地区について特定経路・準特定経路、及び美観地区内における、現在の誘導案内施設の整備状況を調査しました。

対象範囲内には、車両用の案内誘導サインや個別施設の位置サイン、規制サイン等のサインも整備されていますが、本計画の整備対象である、歩行者の移動に係る誘導案内施設を対象に施設の状況を調査しました。

表 特定経路・準特定経路上及び美観地区の誘導案内サイン整備状況

サイン種類		特定 経路	特定 経路	特定 経路	特定 経路	準特定 経路	準特定 経路	その他 経路	美観 地区内	合計
案内 サイン	市設置サイン	2	4	1	2	0	0	0	2	11
	その他主体設置	0	0	0	0	0	1	0	1	2
誘導 サイン	石造施設	1	11	1	0	0	2	3	3	21
	配電BOX貼付	0	6	0	0	0	0	0	0	6
	表示板のみ貼付	1	1	0	2	1	3	0	1	9
	その他主体設置	0	5	0	3	3	0	1	3	15
合 計		4	27	2	7	4	6	4	10	64

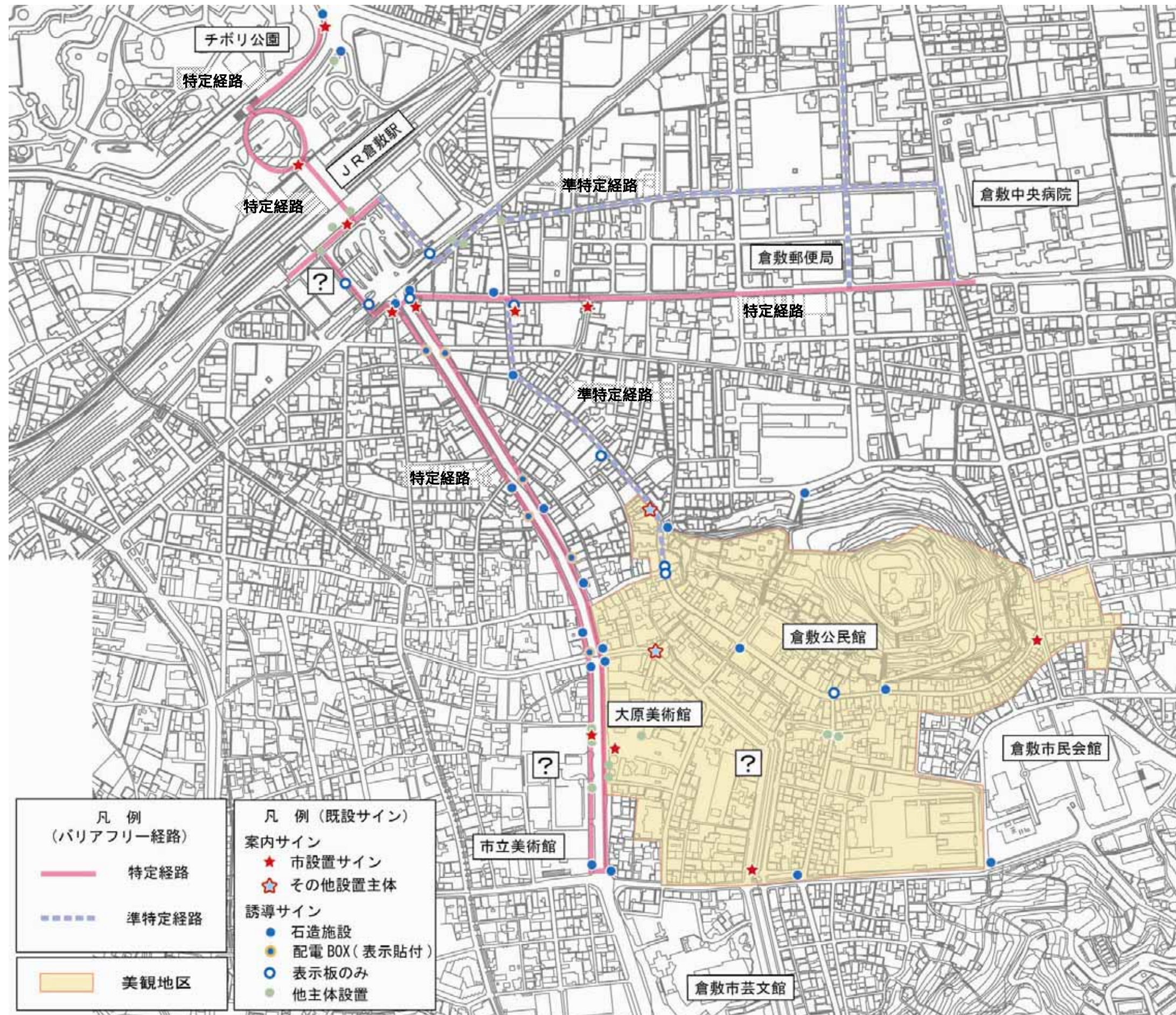
表 【参考】特定経路・準特定経路（既存サインが設置されている経路のみ）

	路線名	経路等
特定経路	阿知鶴形線 幸町美和線	駅から倉敷郵便局、倉敷中央病院へのアクセス経路
	駅前古城池霞橋線	駅から美観地区、中央図書館、市立美術館等へのアクセス経路
	寿町17号線	駅から倉敷チボリ公園へのアクセス経路
	管理用通路	乗り換え経路
準特定 経路	阿知54号線 鶴形1号線 他	駅から倉敷中央病院へのアクセス経路を補完する経路
	阿知42号線	駅から美観地区へのアクセス経路を補完する経路

美観地区やJR倉敷駅デッキ上では、民間施設が設置した誘導サインも見られますが、主に特定の民間施設（公共性の低い施設）への個別の誘導サインのため、上の表にはその箇所数は含まれていません。

サインの整備位置は次のとおりです。サイン施設の現状については、国土交通省の「観光活性化標識ガイドライン（平成17年6月国土交通省総合制作局）」における、「整備にあたっての留意事項」の項目に沿って整理しました。

■現状のサイン整備位置



計画・設置と管理に関する現状と課題

1. 掲載情報に関すること

- ・観光案内情報の記載が少ない。大半の来訪者が観光目的であると考えられる美観地区の案内サインでも掲載情報は市街地内の案内マップと同じ。
- ・掲載されている施設等の基準が不明瞭。バス停やバリアフリー施設等の表示がない。



美観地区内の案内サイン
サイズは大きいが情報の内容は他の場所と同じ

2. 配置に関すること

- ・誘導サインの配置が偏在している。主要な交差点等でサインが全く見つかからない地点はないが、中央通りでは特に分岐点がない区間で複数の誘導サインが設置されている場所がある。
- ・後づけの誘導サイン（表示板のみ貼付）が多い。



電源ボックスや電柱に誘導表示を貼りつけたもの

3. 設置位置に関すること

- ・植栽やごみ箱等のかげになり、見づらいサインがある。
- ・車いす使用者や足の不自由な人等が近づきにくい案内サインがある。
- ・道路(進行方向)と平行に設置されているサインが多い。
- ・表示板下端 50cm～60cm の低い位置に設置されたサイン、逆に下端 2m 以上に設置された案内サインがあり、どちらも表示面が見づらくなっている。



商店街内などサインの設置空間が十分確保できない場所では目線よりずっと高い位置に設置されているものがある



サイン前面に障害物がある



サイン設置場所に段差・傾斜があり、車いす使用者等は近づけない

4．設計施工に関すること

- ・一部の案内サイン・誘導サインの表面が光を反射するタイプの仕上げになっている。
- ・サイン本体施設は、周辺環境になじむ素材（石材）を使用しており、統一されたデザインで整備されている。
- ・夜間の案内誘導に配慮したサインが少ない。（照明等がない）



花崗岩による本体施設
景観に溶け込むデザイン

5．連携に関すること

- ・誘導サインの距離標の間違いがある。
- ・他の案内サインの位置を示すマークは表示されていない。
- ・同一箇所に民間で設置したものや管理主体が違うサインが混在している。
- ・美観地区内で民間施設が設置した誘導サインが目立つ。



美観地区内の民間施設による
誘導サイン

6．管理に関すること

- ・表示板表面が汚れている。一部誘導サインでは文字がほとんど読めない状態のものも見られる。
- ・案内マップの情報が古いものや更新されていないものがある。

表示方法に関する現状と課題

1．レイアウトに関すること

- ・誘導サインの地色は白・文字は青（一部反転パターンあり）
- ・案内サインのベース図は中間色だが、文字・ピクト等に原色（コントラストが強い色）は使われていない。
- ・代表的な誘導サインの文字サイズ：40mm(英文 20mm)
- ・案内サインの文字サイズ：施設名 6mm(英文 3mm)
- ・規制サイン(自転車放置禁止、駐車場関連サイン等)や屋外広告の色彩明度が高いため誘導サインより目立つ。



誘導サインは白地に青文字
またはその反転パターン



花崗岩のサイン施設に比べ規制サインが
目立っている

2. 言語表記に関すること

- ・英語表記は基本的に和文の1/2のサイズで表示されている。
- ・市立美術館周辺の誘導サイン（観光関連機関により設置）は英語表示がない。
- ・観光インフォメーション及び一部の案内マップは4カ国語表記だが、その他は2カ国語表記。

3. 案内マップに関すること

- ・地域案内図は900mm四方に約1.5km四方範囲が表示されている。
- ・広域案内図は900mm四方に約30km四方範囲が表示されている。
- ・美観地区は750mm四方に約1km四方範囲が表示されている。
- ・地域案内図は、立ち位置と地図の向きが同じになるように設置されている。
- ・公共サインは、正確な地形図を基準に作成されている。配布用観光マップでは、単純化・デザイン化されたイラストを使用しているものが多い。
- ・現在位置マークが小さく、目立ちにくい。現在位置の文字サイズは10mm、色はえんじ色(DIC727)。



現在位置マークが目立たず見つけにくい

4. 表示方法に関すること

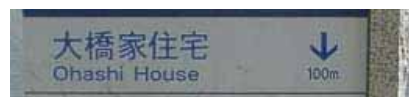
- ・ピクトグラムはホテル、駐車場、トイレ、交番、郵便局、バス停、案内所を表示するのに使われているが、全国統一JISピクトではない。
- ・矢印は下向き、折れ曲がり矢印、二方向矢印が多く使用されている。
- ・案内マップではピクトグラムとあわせて施設イラストを使用している。（美観地区周辺の観光集客施設）



JR倉敷駅～美観地区間は並行して2つの経路があるため（中央通りと商店街）分岐点での誘導は2方向表示している場合が多い



主要な集客施設は施設イラストで表現



不規則な形に折れ曲がった矢印や、下向き矢印の表記も多い

その他の現状と課題

1. 地域特性に関すること

- ・ 商店街ではアーケードに吊り下げ型の誘導サインを設置している。
- ・ 美観地区では景観に配慮した石標の誘導サインを設置している。(高さ 98cm、文字サイズ 40mm)



歴史的景観に配慮した道標型誘導サイン



商店街ではアーケードに吊下げるタイプの誘導サインが多い

2. ユニバーサルデザイン・バリアフリーに関すること

- ・ 点字表記が整備された案内誘導サインはない。
- ・ 音声案内施設が整備された案内サインはない。

点検調査で明らかになったサインの実態について、国道交通省のガイドラインと照らし合わせ問題点を検証しました。

現在のサインは 1994 年（平成 6 年）に策定された「倉敷市公共サイン基本計画」に基づき計画的に整備されていますが、それ以降、全国的にバリアフリーやユニバーサルデザインへの取り組みも進んでいることから、高齢者や障害者、外国人等の視点からの課題が多くなっています。

計画・設置と管理に関する現状と課題

掲載情報に関する こと	・観光客の求める情報を把握し、それらを優先させて掲載する必要がある ・掲載する施設や拠点については、地域特性と利用者のニーズを勘案して掲載基準を決定する必要がある
配置に関する こと	・誘導サインの配置に偏りがあるため、誘導案内の機能に絞った効果的な再配置計画が必要である ・サインが多すぎる区間については、集約する必要がある
設置位置に関する こと	・高齢者や車いす使用者が近づきやすくする必要がある ・進行方向に対して平行に設置されたサインについては、表示方向の変更やインフォメーションマークの設置等目立たせる工夫が必要である ・道路上の設置物や植栽によりサインが隠されたり近づけなくなったりしている箇所については、市民や事業者等への指導や協力依頼が必要である
設計施工に関する こと	・反射等による視認性を確認し、設置場所や素材の選定が必要である
連携に関する こと	・サイン間の情報、配置の連携だけでなく、配布されている案内地図や民間によるサインとの連携を図る必要がある
管理に関する こと	・情報更新のための管理システム構築が必要である

表示方法に関する現状と課題

レイアウトに関する こと	・案内地図の色のコントラストを強くする必要がある ・その場合、弱視者や高齢者、色覚障害者への配慮、特に色覚バリアフリーに対する配慮が必要である ・文字サイズを現状より大きくする必要がある
言語表現に関する こと	・英語表記の文字サイズを現状より大きくする必要がある ・原則的には日本語、英語の 2 カ国語にピクトグラムを加えて表記することが必要だが、主要地点（総合案内サイン等）では多言語表記が求められる
地図に関する こと	・地域案内図の表示範囲が広い（縮尺が大きい） ・現在位置をはじめ、利用者がほしい情報がもっと分かりやすく表示される必要がある
表示方法に関する こと	・ピクトグラムをより積極的に活用するとともに、表示サイズを現状より大きくする必要がある ・矢印の使い方に問題があるところもあり、全体的に見なおす必要がある

その他の現状と課題

メディアの相互連携	・観光案内所等で配布されているマップや民間設置のサインとの連携を図る必要がある
地域特性	・商店街や美観地区内でのサインは、景観や観光活性化の視点から最適な方法での情報提供を検討する必要がある ・バス停、バスターミナルの誘導案内を関係者との調整のもと進める必要がある
ユニバーサルデザイン	・主要地点（総合案内サイン等）では、点字や音声案内など効果的な手法の組み合わせによる案内が必要である ・バリアフリー施設の表示や車いす使用者のためのバリアフリー経路（もしくはそれに準ずる経路）の表示を検討する必要がある

(2) 来訪者アンケート調査

調査概要

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画の策定にあたり、対象地区での誘導案内の状況を把握するため、来訪者アンケート調査を実施しました。実施概要は以下のとおりです。

項目	内容
対象箇所	倉敷駅周辺（主として美観地区：下図参照）
実施期間	平成19年8月18日（土） 9:00～17:00
調査方法	聞き取り調査
有効回答数	253件
主な質問項目	・旅行の概要（行き先・人数・日程等） ・交通手段と問題点 ・市内のサインについて（見やすさ、利用しやすさ等） ・商店街について（訪問の有無、商店街の印象等）

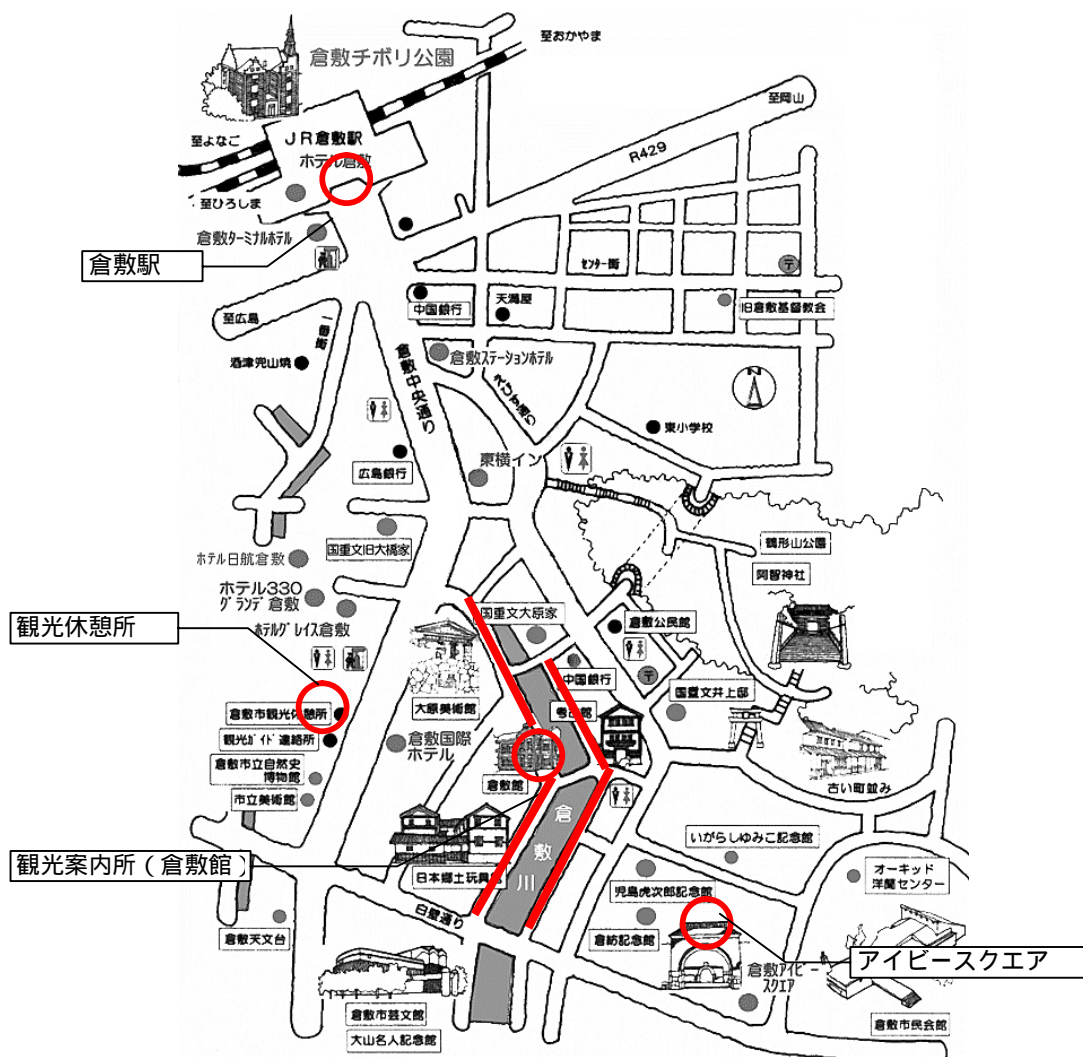


図 主な調査位置

調査結果

■ 観光客の特徴

- ・回答者の過半数は倉敷を訪れるのが2回目以上であり、旅行日程としては日帰りでの訪問が多くなっています。
- ・訪問の交通手段としては、ＪＲ利用者と自動車利用者の割合は概ね同程度ですが、市内では徒歩による観光が主体となっています。

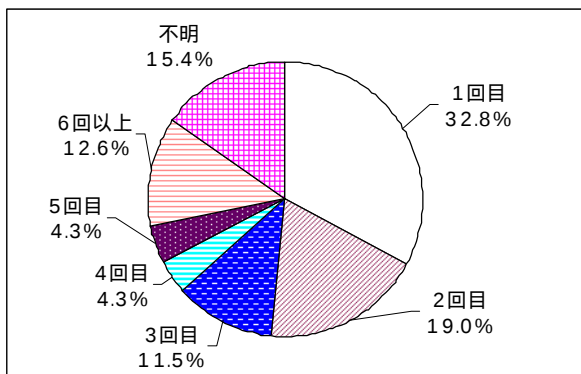


図 倉敷への訪問回数

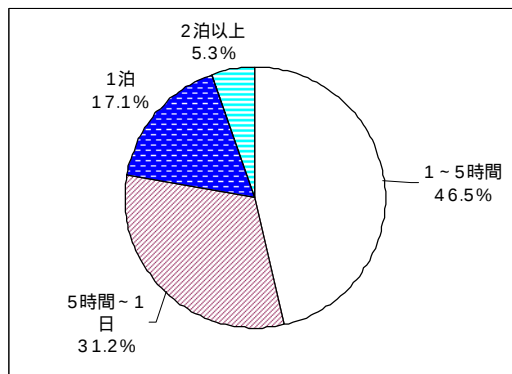


図 倉敷での滞在時間

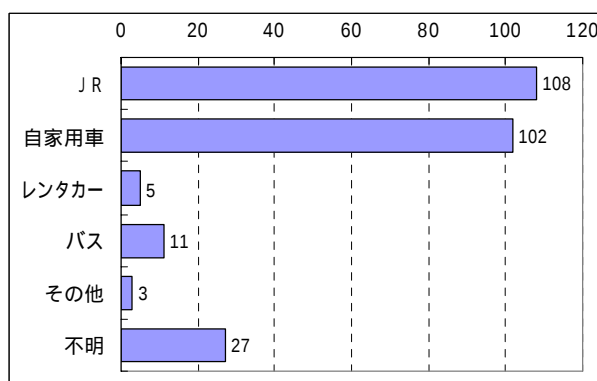


図 倉敷市訪問の交通手段

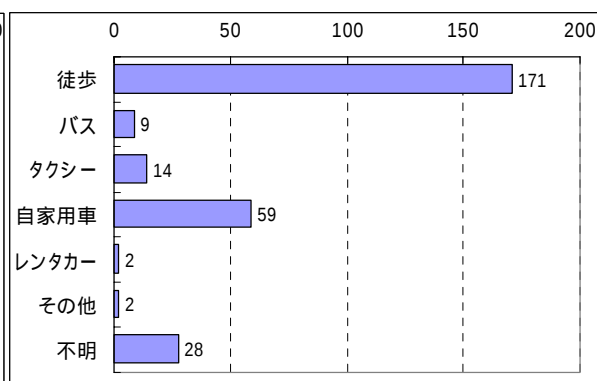


図 市内での移動手段

■ サインについて

- ・来訪者の過半数は観光時にサインを利用しており、サインの「わかりやすさ」「見やすさ」「見つけやすさ」については、回答者の約80%から「よい」という評価を得ています。「分かりにくい」と回答した理由として、「駐車場が分かりにくい」「バス停が分かりにくい」という声がありました。また、見にくい理由としては、「字が小さい」という理由が多く見られました。

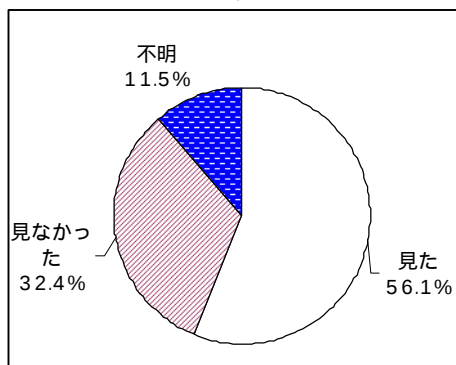


図 観光途中でサインを見たか

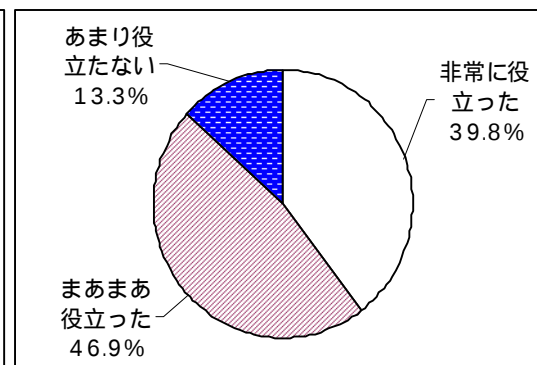


図 サインは役に立ったか

■ 経路のわかりやすさ

- ・回答者の 7 人に 1 人は、移動中に迷ったり方向が分からなくなったりしています。迷いやすい地点としては、商店街から美観地区に行くときという回答が多く見られました。
- ・誘導サインには、場所（目的地）への方向だけでなく、距離や時間の表示が欲しいという意見も見られました。

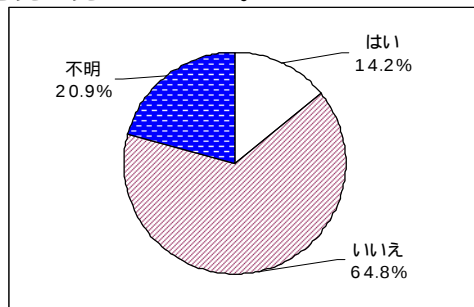


図 移動中道に迷ったか

■ 商店街について

- ・回答者の 30%が商店街を訪問し、そのうちの 40%が商店街で買物や飲食をしています。しかしながら、商店街の印象は、60%（35 人回答中）が「寂しい」「さびれている」「暗い」という結果となっています。
- ・商店街を通して美観地区や倉敷駅に向かう人のうち、4 人に 1 人は目的地までの行き方が分からなかったと回答しています。

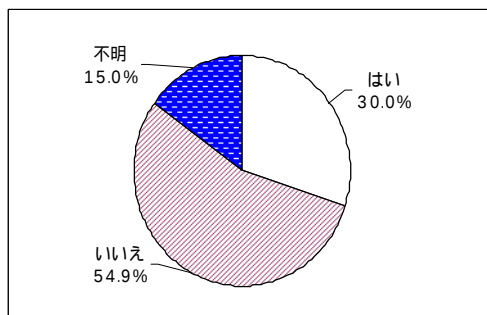


図 商店街を訪問したか

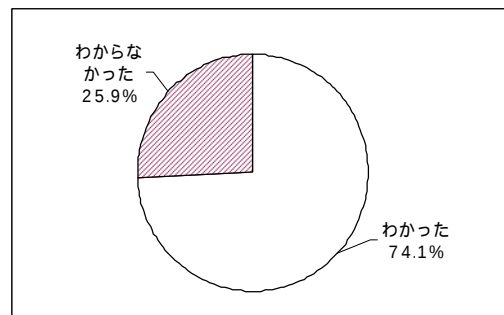


図 商店街から目的地までの行き方は分かったか

(3) ワークショップによるサインの現況調査

第1回ワークショップにおけるサインの現況についての意見を、それぞれの点検項目に分類し課題として整理しました。以下の課題は住民の意向と地域特性を反映するニーズであるため、ガイドラインだけでは定められない地域独自の対策を検討するための課題として整理しました。

計画・管理に関する課題	
掲載情報に関する こと	■ 観光客を対象とした情報提供が必要 ・ 観光客に何を見せるかの検討が必要 ・ 美観地区の施設など観光客にとって必要な情報を見やすくする表現方法が必要 ・ 駐車場位置など第一接触箇所の情報は、ビジターにとって重要な情報であり確実な情報提供が必要 ■ 情報の更新・メンテナンスが重要 ・ 古い情報や、「旧○○跡」は、来訪者には意味をなさない。継続的な情報更新が必要 ■ 提供する情報内容 ・ 目的地までの距離か所要時間の提供が必要
配置に関する こと	■ 適切な配置が必要 ・ 多すぎないこと、少なすぎないこと、適切な間隔に配慮した検討が必要（減らすことも要検討） ・ サイン配置の連続性に十分な配慮が必要 ・ 一定の規則によるわかりやすい配置が必要 ■ その他の課題 ・ サインを配置する場所が無い場合、やむなく反対側歩道を利用して設置することも検討する。ただし、文字サイズと視点場からの距離には十分な配慮が必要
設置位置に関する こと	■ 設置高さについて（車いすなどにも配慮）配慮が必要 ・ 誘導サインの設置高さは、目線の高さを基本とすることが望ましい ・ 車いすへの配慮が必要 ・ 必要に応じて路面標示を用いる検討も必要
設計施工に関する こと	■ 利用者が表示面を見やすい配慮が求められる ・ 光を反射しやすい素材は使わないことが望ましい
連携に関する こと	■ サインシステムに関する課題 ・ 設置スペースや見やすさによっては案内サインと誘導サインを一体して整備する検討が必要
管理に関する こと	■ 障害物の排除 ・ 樹木、植栽、ゴミ箱などサイン表示を隠している障害物については、各管理者間の連携により適切に配置することが必要

表示・レイアウトに関する課題

レイアウトに関する こと	■ 文字サイズでの配慮 ・ 文字サイズは視点場からの距離に合わせた検討が必要 ・ 誘導サインは現行の 1.5 倍程度が望ましい
言語表現に関する こと	■ 外国語表記での配慮 ・ トイレの案内などにも外国語表記が必要
地図に関する こと	■ ピクトグラムや目的物の表現手法の配慮 ・ 建物の形状を図で示すなどの工夫が必要
表示方法に関する こと	■ ノイズの排除 ・ サインや地図はシンプルな表現のほうが見やすいため、不必要な情報や装飾は排除することが必要 ■ 十分なコントラストが必要 ・ 文字と地色のコントラストを強くすることが必要 ・ サインを目立たせるために、背景色と地色のコントラストが必要 ■ その他の課題 ・ 観光スポットや強調する箇所は、文字サイズや色を変えるなどの工夫が必要

その他の事項課題

メディアの相互連 携	■ 人による案内 お店の人が教えてくれるなど、人の案内（サイン）も重要。場合によっては、認定制（案内マスターなど）を検討。地域としてのホスピタリティが必要
地域特性	■ 地域にあったサインを設置 ・ 商店街らしいサインの検討が必要 ・ 美観地区は景観に配慮した、わかりやすいサインシステムが必要
ユニバーサルデザ イン	■ 音声案内の利用検討 ・ 音声による誘導案内の導入が必要 ・ 音声で、サインや点字表示の設置箇所を知らせることが必要 ■ その他の課題 ・ どこで情報が入手できるかがわかるサインシステムの検討が必要

(4) サイン整備の課題

前項までの調査結果から、倉敷駅周辺のサイン整備に関する課題は次の4点に整理されます。

誘導案内を必要とする人が見つけやすいサインデザイン

現在整備されている石造のサインは、周囲の景観に溶け込むように配慮されていますが、デザインの顕在性が低いため、観光客からは見つけにくいものになっています。どんなにきめ細かい誘導案内情報が提示されていても、見つけにくいサインは来訪者に不安感を与える不親切なものとなってしまいます。主要道路の沿道に整備されている現サイン施設は、本石を使用した景観になじむ優れたデザイン性を有するものですが、本計画でのサイン整備にあたっては、まちなみ景観へ十分な配慮をしながら、誘導案内を必要とする来訪者が必要な場所でサインをすぐに見つけられるようなデザインを再検討することが重要です。

必要な情報を分かりやすく表示

ワークショップでの現地検証における意見で最も多かったのが、サインの文字サイズが小さい、色のコントラストが弱い等の原因による、表示内容の分かりにくさの指摘でした。また、案内マップにおけるピクトグラム使用が少ないこと、ひとつの誘導先に対して2方向の矢印が表示されているなど、初めて倉敷を訪れる人や外国人にとって不可解な表示内容が多くなっています。

不特定多数の訪問者に対して、一目で分かる誘導案内や、情報内容が理解しやすい表示を行うことは、サインにとって最も重要な課題です。歩きながら方角を確認するための誘導サインは、一定の距離からでも明確に文字や進行方向が認識できることが重要であり、施設種類や地図情報を掲載するにあたっては、年齢や国籍に関係なく、その情報が理解できるような表示手法を検討する必要があります。

高齢者や障害者等への配慮

現在整備されているサインのなかには、健常者と比較して一般的に、視点が低い高齢者や車いす使用者にとって表示面が見えにくい形状や、サインそのものに近づきにくい状況の施設がいくつか見られます。また、色のコントラストが弱い表示や、音声案内や点字表示での情報提供がなされていないことは、視力の弱い方にとって情報を入手しにくい状況となっています。

高齢化がますます進行している現在、すべての人が安心・安心に移動できるサイン整備をめざすことが、重要な課題となっています。

市街地内のサインを見ると、植栽やゴミ箱、商店街内の陳列物等により、サイン表示面の一部が隠れた施設や、視力の弱い人が、表示面を近づいて見ることの出来ない施設もいくつかあります。サイン施設の整備だけでなく、住民や事業者の協力によって、来訪者への思いやりをもった誘導案内機能の向上を図ることが大切です。

計画的かつ効果的なサイン配置

本市は、年間 600 万人以上の方が訪れる観光都市です。アンケート調査では、来訪者の大半が徒歩で観光拠点間を移動することがわかりました。代表的な観光地である美観地区周辺には、現在でも様々な整備主体によるサイン施設が整備されていますが、設置場所が偏っていたり、商店街での誘導案内が不足していたりと、来訪者の行動に則した配置になっていないといえませんが。

だれもが分かりやすい案内誘導を実現するためには、来訪者の行動経路を踏まえた計画的な配置計画の検討が必要です。また、最小限のサインによる効果的な誘導を実現することにより、まちの景観に配慮することも重要なことです。

2. サイン整備の基本方針

(1) サイン整備のコンセプト

本市のサイン整備に関する4つの課題を解決するため、交通バリアフリー基本構想の理念である「ひと、輝くまち 倉敷」を踏まえ、だれもが安全、快適に移動できるまちの実現に向けたサインシステムの実現を目指します。

サイン整備にあたっては、観光都市「くらしき」としての地域特性を十分考慮し、来訪者へのおもてなしの心と、だれもが倉敷のまちでの滞在を満足して快適に感じられるための情報提供を目指します。

バリアフリー基本構想

「ひと、輝くまち 倉敷。」
だれもが安全、快適に移動し、活動できる美しいまちを目指す

- ハードとソフトが連携した交通バリアフリーの推進
- “おもてなし”の視点から交通バリアフリーの推進
- 多様な交通手段、サービスが充実した持続可能なまちづくりの推進
- 市民、事業者、行政の協働による交通バリアフリーの推進

観光都市としての課題

- 観光入り込み客数は減少傾向
- 来訪者の滞在時間が極めて短い（平均約2時間）
- 一人あたり観光消費額が減少傾向
- 商店街の売上額減少
- アジア圏観光客の増加 ほか

観光都市「くらしき」として、 ホスピタリティにあふれたサインシステムの実現

おもてなし＝思いやりのあるまちづくり

倉敷をおとずれる様々な立場の人々にとって、必要な情報がふさわしいかたちで提供されることを目指します

だれもが快適に過ごせるまちづくり

倉敷のまちでの滞在が、より心地よく快適な時間となるように、受け手にとって満足度が高くなるような情報提供を目指します

安全、安心な行動を支えるまちづくり

健常者はもとより、高齢者や障害者の移動がより多様な手法でサポートされるように、きめ細かな配慮による情報提供を目指します

(2) サイン整備方針

観光都市「くらしき」として、ホスピタリティにあふれたサインシステムを実現するため、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点を重視したデザインによりサイン施設を整備し、計画的で効果的な施設配置により誘導案内の向上を図ります。整備にあたっては、行政、観光関連団体をはじめ、住民や事業者それぞれがサイン事業に対する理解を深め、地域全体でももてなしの気持ちがあふれるまちづくりに取り組みます。

倉敷駅周辺誘導案内施設の整備方針

バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点を重視したサインデザイン

- 表示デザイン(文字サイズ、色彩など)、設置位置等(施設サイズ、高さなど)については、標準的な基準にバリアフリーの視点を重視した指標を加えて設定する
- 特に色彩デザインについては、色覚バリアフリーを十分考慮した設計とする
- 案内誘導するルート上で重要な地点(行動の起点や主要な分岐点など)では、点字や音声案内、多言語案内等の積極的な導入を図る

来訪者の視点による効果的・計画的なサイン配置

- 交通バリアフリー基本構想の特定経路、準特定経路に基づく誘導ルートを設定するとともに、来訪者のニーズを踏まえ、効果的な案内誘導ができるようにサインを配置する
- 来訪者が安心して移動できるように、必要最小限のサインを配置し、不正確なサインや利用者に不安を与えるような誘導表示等のサインは集約、撤去する

関係機関等との連携・調整によるサイン整備

- 商店街や美観地区では、商工・観光関連機関と十分調整を図り、景観形成や地域活性化に配慮した整備を行う
- 景観やまちなみ形成とのバランスを考慮し、できるだけシンプルなデザインかつ適切なサイズのサインを整備する
- 現サインの基礎や枠等、既存資源をできるだけ利用した整備を行う
- 表示情報は、観光関連機関や民間等による既存サインや配布用観光案内地図と連携した内容とする

サイン機能整備計画

1. サインの機能と役割

(1) サインの機能

本計画で整備対象となる2つのサインは基本的に次のような機能を担います。

- 案内サイン：利用者の現在地と方角を知る

現在地と目的地との位置関係(目的地までの方向と大まかな距離)を把握する

- 誘導サイン：目的地までのルート上であることを確認する

目的地までの方向と距離を確認する

注)案内サインと連携すべき配布用観光マップについては、「行きたい施設(個別)の詳細な位置、その他観光等の情報を把握するもの」として位置づけます。



写真 既設誘導サイン



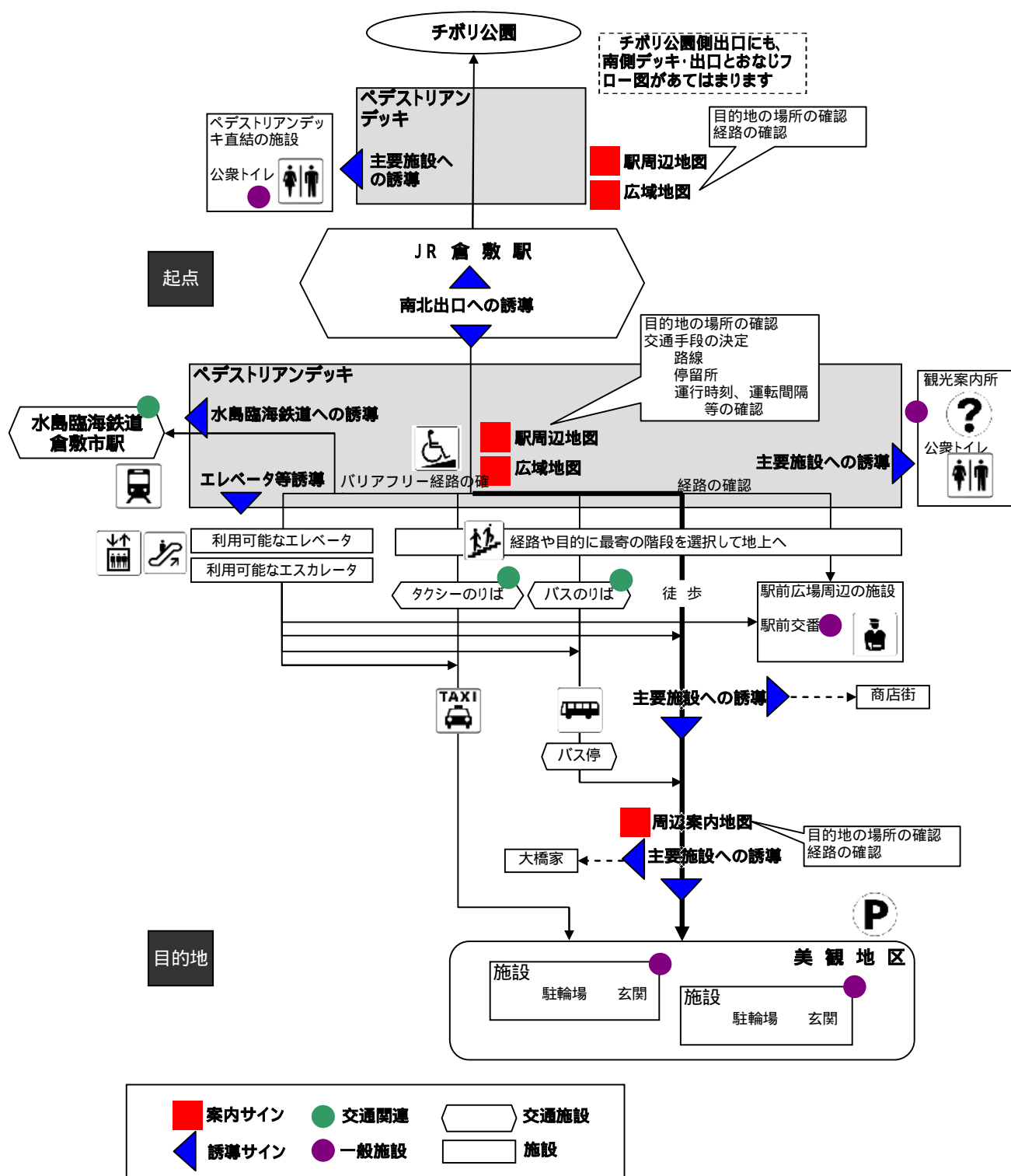
写真 既設案内サイン

(2) 移動経路におけるサインの役割

施設分布や道路整備状況、来訪者の目的によって、目的地までの移動パターンは変化します。来訪目的が観光である場合、目的地が多数あり分散している場合は回遊型傾向が強く、集中していて少ない場合は直進型傾向で移動します。

倉敷駅周辺地区をみると、大半の来訪者の目的地は美観地区と考えられます。このように特定の目的地に直進的に移動するための誘導案内機能としては、原則的に最短経路を選択するための誘導サインを重点的に整備することが効果的です。

倉敷駅周辺地区で、来訪者が目的地へ移動するまでのサインの役割の考え方を次に示します。



２．サイン配置計画

（１）サイン配置の基本方針

J R 倉敷駅を行動起点とした重点整備地区での誘導案内は、誘導目的となる施設や拠点に対して、倉敷市交通バリアフリー基本構想における特定経路及び準特定経路を誘導ルートとして設定することを基本方針とします。

倉敷駅周辺でサインを必要とする利用者の大半は、美観地区へ行くことを目的とした観光客と考えられます。そのため、J R 倉敷駅から美観地区及び周辺の主要施設等を誘導目的地とし、特定経路である中央通り（駅前古城池霞橋線）と準特定経路である商店街を誘導ルートとして設定して案内誘導を行います。

同様に、交通バリアフリー基本構想で指定された特定経路と準特定経路である J R 倉敷駅から倉敷中央病院へのルートは、沿道及び周辺に倉敷郵便局や医療福祉施設など、住民や来訪者が多数利用する施設が立地していることから、主要施設への誘導が必要なルートとして誘導案内を行います。

また、市内外から不特定多数の人が多く訪れる倉敷市民会館と倉敷市芸文館については、美観地区への誘導ルートから連続して施設への誘導を行うルートを設定します。

■案内サイン及び誘導サインの配置の考え方

誘導ルート上における歩行者の誘導案内は、案内サインと誘導サインにより行います。それぞれのサインの機能を踏まえ、効果的な誘導案内のための配置を行います。

○案内サイン

- ・案内マップは原則として、市全域または現在地の周辺約 1 k m²を表示範囲とします。
- ・配置位置は、来訪者の行動起点となる地点、もしくは観光施設、観光資源となる場所において、観光客が多く目にすると思われる地点とします。

○誘導サイン

- ・誘導表示は誘導経路上にある誘導目的となる施設名、及び配置箇所周辺の主要施設名称に、誘導方向を示す矢印と距離標を併記します。
- ・施設及び観光資源等の誘導サインは、原則として誘導経路の分岐点となる交差点、もしくは交差点前後の歩道上に設置します。

(2) 誘導ルート・誘導案内拠点の設定

倉敷駅周辺地区の誘導ルート及び誘導案内拠点を、以下のとおり設定します。

■ 誘導ルートの設定

観光誘導ルート：ＪＲ倉敷駅から美観地区周辺までの誘導

- ・ 倉敷駅周辺地区では、倉敷チボリ公園と美観地区を誘導すべき観光拠点とします
- ・ 交通バリアフリー基本構想における特定経路及び準特定経路をルートとして設定します

施設誘導ルート：ＪＲ倉敷駅から倉敷中央病院への誘導

- ・ 交通バリアフリー基本構想における特定経路及び準特定経路をルートとして設定します

その他の誘導ルート

- ・ 倉敷市民会館と倉敷市芸文館へは、美観地区までの誘導ルートから連続して誘導できる歩道を誘導ルートとして設定します

■ 案内誘導拠点の設定

行動起点・誘導拠点

- ・ 行動起点はＪＲ倉敷駅と設定します
- ・ 案内サイン及び周辺の主要施設への誘導サインを設置します
- ・ 行動起点では、地区及び広域の総合的な誘導案内情報を提供できる機能を整備します

分岐点（中拠点：主要交差点に設定）

- ・ 誘導ルートが分かれる地点、誘導ルートが交差点で曲がる地点では、案内サイン及び誘導サインを設置します

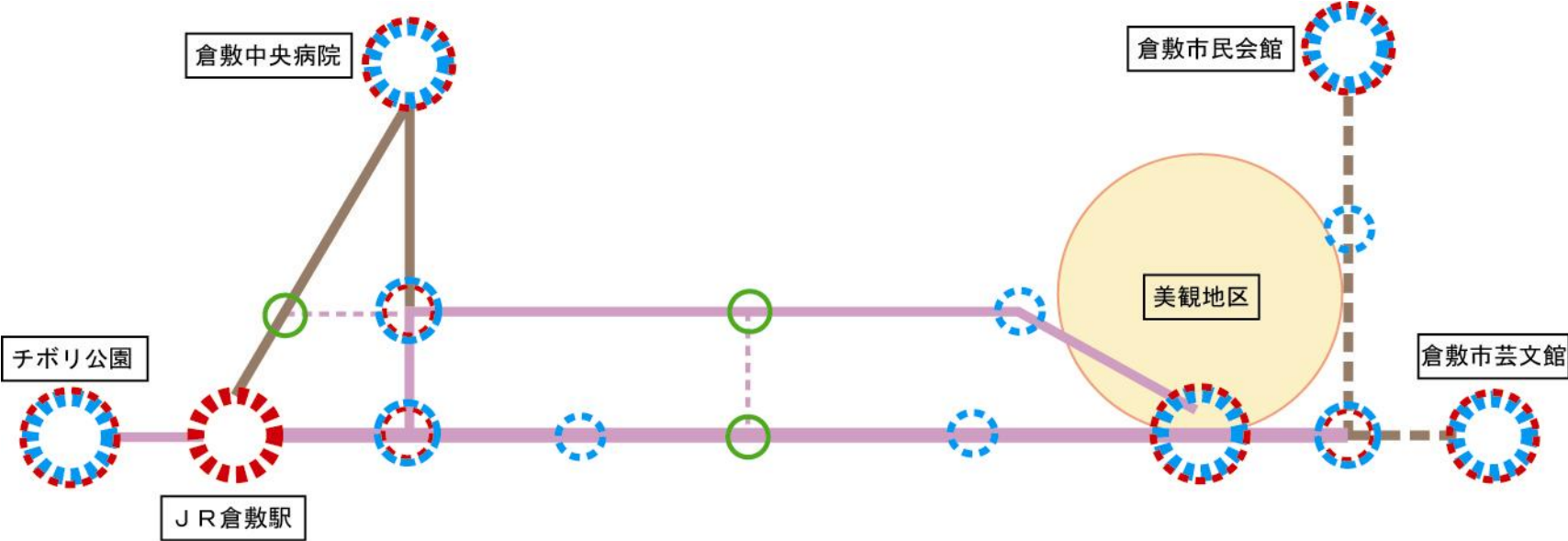
連絡点（小拠点：経路上の交差点等に設定）

- ・ 誘導ルート上に交差点がある場合、または直線のルートで一定以上の距離がある場合、誘導サインを設置します

ルート案内

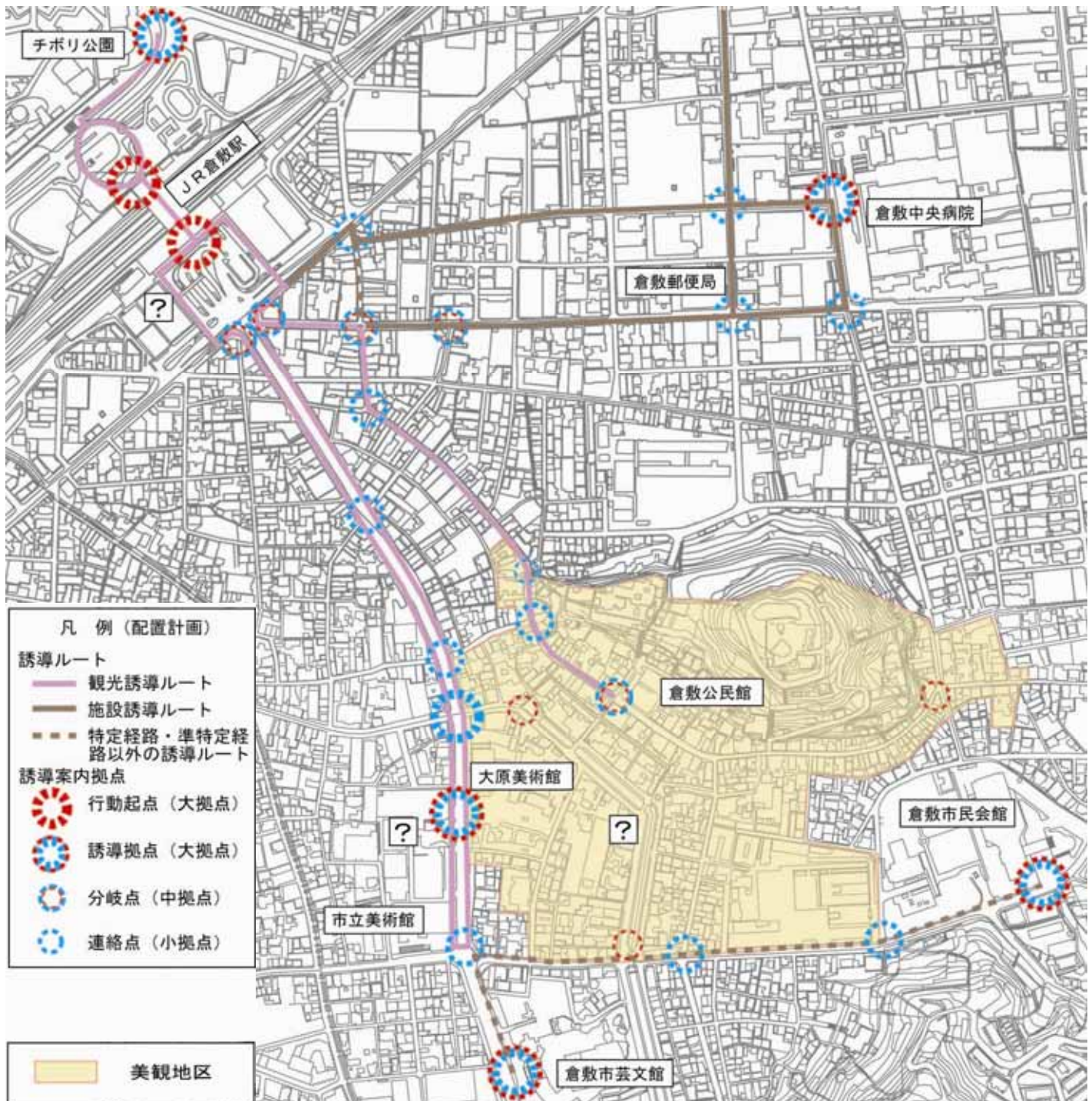
- ・ 並行する２つのルートを結ぶ経路がある場合、各ルートへの案内のための誘導サインを設置します（実際には、分岐点・連絡点で併せて表示される機能と想定）

■誘導ルート・誘導案内拠点の配置方針



誘導ルート		案内誘導拠点	
観光誘導ルート： JR倉敷駅から美観地区周辺		行動起点・誘導拠点	
施設誘導ルート： JR倉敷駅から倉敷中央病院		分岐点（中拠点：主要交差点）	
その他の誘導ルート		連絡点（小拠点：交差点等）	
		ルート案内	

■配置方針図



●美観地区内の誘導案内について

美観地区内は誘導ルートを設定せず、主に案内サインによる情報提供の充実により、地区内の誘導案内機能を整備します。地区内に設置された既存の案内サイン（3箇所：)と倉敷公民館に設置する案内サインは、より詳細な地区案内と、駅・商店街方面への分かりやすい誘導案内表示を行います。また、倉敷駅から商店街を経由するルートにおいては、連続して倉敷川畔まで分かりやすい誘導を行うために、誘導案内機能の充実を目指します。

(3) サイン施設の配置計画

配置方針で設定された各拠点において、求められる役割を果たすサインの機能を整理するとともに、拠点上に設置すべき施設位置と施設数を設定します。

誘導ルートでのサイン利用者の大半は、歴史的まちなみを残す美観地区での観光を目的とした観光客といえます。従って、倉敷駅周辺地区でのサイン整備においては、美観地区に至る倉敷のまちなみの特徴である伝統的で落ち着いたある景観づくりに配慮する必要があります。

計画的な施設配置によりサイン施設の設置箇所を最小限に抑えることは、質の高い景観形成に寄与することにもつながるため、各拠点で十分に役割を果たすための設置位置と必要最小限の施設数を設定します。

美観地区においては特定拠点への誘導ルートは設定しませんが、倉敷のまちの魅力のひとつである路地や小路への誘導については、サインに期待されている部分もあります。そのため、美観地区内の案内サインは、地区周辺での回遊性を保ちつつ、観光客の自由な散策行動をサポートすることを目指し、他の拠点より表示範囲を狭く設定した、詳細な案内が可能な案内マップを整備します。

■案内サインの種類と機能

拠点	行動起点	誘導拠点	分岐点		美観地区内※1
			既存施設有	既存施設無	
場所	倉敷駅	美観地区入口（周辺） 倉敷中央病院 倉敷市民会館 倉敷市芸文館 倉敷チボリ公園	既存案内サイン施設設置箇所	既存案内サイン施設のない箇所 ※誘導サイン施設に案内マップを掲示	美観地区内
案内マップサイズ	900 mm×900 mm	900 mm×900 mm	900 mm×900 mm	400 mm×360 mm	900 mm×900 mm
案内マップ表示範囲	約1 km四方	約1 km四方	約1 km四方	約1 km四方	美観地区を中心にその周辺
その他機能	広域案内図 駅前広場等周辺案内 主要地点誘導機能 主要観光スポット紹介 音声案内等	倉敷駅までの案内図（簡易表現） 主要地点誘導機能	（施設横に誘導サイン設置）	倉敷駅までの案内図（簡易表現）	倉敷駅までの案内図（簡易表現） 主要地点誘導機能 音声案内等
整備目的	総合案内施設として二つの高い機能を整備	駅から誘導目的施設（拠点）までの案内	現在地周辺の位置情報の案内	倉敷駅までの誘導のための補完	美観地区内の詳細案内・倉敷駅までの案内

■誘導サインの種類と機能

拠点	連絡点	
場所	一般道（歩道）	商店街等
その他機能	倉敷駅と誘導目的地間の案内図（簡易表現）	ルート誘導の補完※2
整備目的	倉敷駅と誘導目的施設間の誘導	倉敷駅～美観地区間のルート誘導

※1：美観地区における誘導拠点は「美観地区入口」だが、案内サインについては観光客が多く集まる美観地区内に設置する。美観地区内では周辺を含む案内ではなく、ある程度詳細な案内に特化したマップを作成する。また、併せて倉敷駅までのルート案内機能を整備する

※2：三叉路等の形態で分岐し、中央通りと連絡する地点が多いため、方向指示型の誘導に併せ、必要に応じてルートの説明機能を整備する

■サイン配置計画図

サイン整備箇所（計画）

案内サイン整備箇所数

計 16 箇所

○新設：11

うち 駅前総合案内サイン：1

美観地区区内別途デザイン：2

○現施設改良整備：5

誘導サイン整備箇所数

計 28 箇所

○新設：13

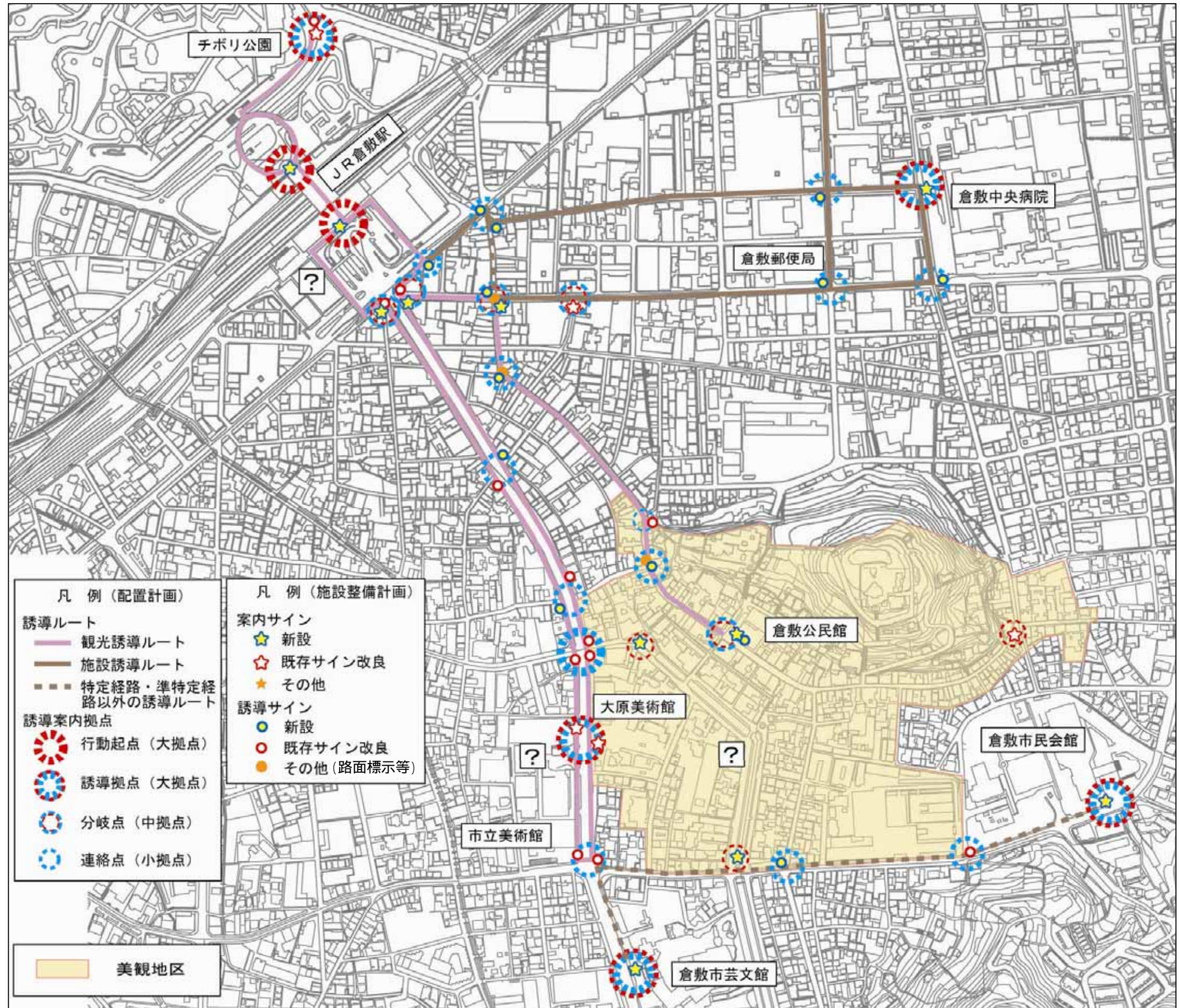
うち商店街内：4

○現施設改良整備：12

○その他

路面標示候補地点：3

サイン施設種類と設置箇所については、本計画にもとづき各関係機関・沿道事業者等との調整を図ったうえで、現地の状況をふまえた整備を検討する。



３．表示内容とレイアウト

（１）案内マップの掲載情報

施設等の掲載情報については、「倉敷市公共サインガイドライン」の情報掲載基準に基づき選定します。倉敷駅周辺地区での案内サインに設置する案内マップは、周辺都市との位置関係や広域的な交通機関の経路を確認するための広域案内マップ、現在位置と移動経路を確認するための周辺案内マップ、周辺の主要施設や道路がわかりやすく表記された地域案内マップの３種類とします。

一般的な案内サインに掲示されるのは、主に徒歩での移動範囲を示した周辺案内サインですが、主要な行動拠点であるＪＲ倉敷駅等では、鉄道等で広範囲で移動する人のために広域案内マップを併せて表示します。また、多くの観光客が集まる美観地区では、より具体的な施設案内情報を提供できるように、縮尺の大きい地域案内マップを表示します。

それぞれの縮尺と役割は以下のとおりとします。

種類	縮尺	役割
広域案内マップ	1/15000～20000	周辺都市との位置関係を把握(総合案内サイン)
周辺案内マップ	1/1000～1500	現在地から目的地までの移動経路を確認
地域案内マップ	美観地区の範囲	施設や地区の詳細情報を把握 (美観地区内の案内サイン)

案内マップに掲載される地図情報について、以下に示します。掲載施設は、「倉敷市公共サインガイドライン」の情報掲載基準に従い選出しますが、地域案内マップについては、美観地区周辺の観光関連団体や事業者等とともに、観光・商業施設等の掲載を個別に検討することが必要です。

■ 広域案内マップの掲載施設

施設種類	施設名称	英文表記
公共施設	倉敷市役所	Kurashiki City Hall
	倉敷市民会館	Kurashiki Civic Hall
	倉敷市芸文館	Kurashiki Geibunkan Hall
	児島文化センター	Kojima Sightseeing Pier
	玉島文化センター	Tamashima Cultural Center
	マービーふれあいセンター	Mabi Fureal Center
	水島サロン	Mizushima Salon
	ライフパーク倉敷	Life-park Kurashiki Education Center
	サンピア倉敷	Sunpia Kurashiki Complex
歴史・文化施設など	沙美海岸	Sami Beach
	王子が岳	Ojigadake Hill
	水島工業地帯	Mizushima Industrial Area
	美観地区	Bikan Historical Quarter
	象岩	Elephant Rock
	瀬戸大橋	Seto-ohashi Bridge
	鷺羽山ハイランド	Washuzan Highland
	児島観光港	Kojima Sightseeing Pier
	瀬戸大橋架橋記念館	Seto-ohashi Memorial Bridge Museum
	国民宿舎良寛荘	Ryokanso Inn
	国民宿舎王子が岳	Ojigadake Inn
	下津井城址	Shimotsui Castle Ruins
	野崎家旧宅	Nozaki House
	矢掛町並み保存地区	Yakage Preservation District
	玉島町並み保存地区	Tamashima Preservation District
	下津井町並み保存地区	Shimotsui Preservation District
	倉敷ファッションセンター	Kurashiki Fashion Center
	山陽ハイツ	Sanyo Heights
寺・神社 その他宗教施設等	円通寺	Entsuji Temple
	戸島神社	Toshima Shrine
	安養寺	An-yoji Temple
	遍照院	Henjoin Temple
	笹取神社	Heratori Shrine
	不洗観音寺	Arawazu-kannonji Temple
	藤戸寺	Fujitoji Temple
	熊野神社	Kumano Shrine
	五流尊瀧院	Goryu-sonryuin Temple
	通仙園	Tsusen-en Garden
	鴻八幡宮	Ko-hachimangu Shrine
	蓮台寺	Rendaiji Temple
	由加神社	Yuga Shrine
教育施設	倉敷作陽大学	Kurashiki Sakuyo University
	倉敷作陽短期大学	Kurashiki Sakuyo Junior College
	倉敷芸術科学大学	Kurashiki University of Science and The Arts
	倉敷市立短期大学	Kurashiki City College
	岡山短期大学	Okayama College
	岡山学院大学	Okayama Gakuin University
	川崎医科大学	Kawasaki Medical University
	川崎医療福祉大学	Kawasaki University of Medical Welfare
市外施設など	R S Kバラ園	RSK Rose Garden
	コンベックス岡山	CONVEX Okayama
	岡山県総合流通センター	Okayama Central Distribution Center
	サウスビレッジ	South Village
	金光教本部	Konkokyo Head Quarters
	吉備津神社	Kibitsu Shrine
	備中国分寺	Bitchukokubunji Temple

【参考：広域案内マップの情報掲載基準（倉敷市公共サインガイドラインより）】

図形表現	施設などの分類		掲載基準	
	地勢等	海、港湾	主要なもの	
		河川、水路	主要なもの	
		山・丘陵	標高100m以上	
		市町村界	行政界のみ	
		町丁界	表示しない	
	交通機関	道路	高速道路、有料道路、国道、県道、その他主要な市道	
		橋梁	主要なもの	
		鉄道	原則としてすべて	
施設	公園緑地	広域避難場所に指定されている公園		
	施設の建物形状	名称表記するもの全て		

名称等表現	施設などの分類		掲載基準		ピクトグラム・マーク表示	名称表示
	地勢名等	海、港湾	主要なもの		○	
		河川、水路	主要なもの		○	
		山・丘陵	表示しない			
	地名	市町村	近隣市町村名		○	
		町丁目	表示しない			
		地区名	水島工業地帯、倉敷川畔美観地区		○	
	交通機関	道路	高速道路、有料道路、国道		○	
		橋梁	ランドマーク性の高い主要なもの（瀬戸大橋、水島大橋、新霞橋、川辺橋）		○	
		鉄道路線	原則としてすべて		○	
		鉄道駅	原則としてすべて		○	
		至る表示	次の駅、もしくは代表的な駅名によって表示		○	
	公共施設	公園緑地	水島緑地福田公園、水島中央公園、玉島の森運動公園、倉敷運動公園、中山運動公園、酒津公園、児島地区公園	○	○	
		国・県の施設	広く一般に利用され著名なもの、観光要素の強いもの	○	○	
		市の施設	広く一般に利用され著名なもの、観光要素の強いもの	○	○	
	公共的施設	公益施設	原則として表示しない			
		民間医療施設	原則として表示しない			
		民間教育施設	主要な大学・短期大学など	○	○	
	民間施設	文化・スポーツ施設	広く一般に利用され著名なもの、観光要素の強いもの（観光コンベンションビュー口と調整）	○	○	
		大規模商業施設	原則として表示しない			
		宿泊施設	原則として表示しない			
		金融機関	原則として表示しない			
		寺社仏閣	広く一般に利用され著名なもの（観光コンベンションビュー口と調整）	○	○	
		その他	広く一般に利用され著名な観光施設や地区（観光コンベンションビュー口と調整）	○	○	

■周辺案内マップの掲載施設 1

施設種類	施設名称
河川・水路	倉敷川
	倉敷用水
道路	国道 429 号
	倉敷中央通り
	えびす通り
	本町通り
	白壁通り
	倉敷センター街
	一番街
橋梁	今橋
	中橋
	高砂橋
	新前神橋
公園・緑地	鶴形山公園
行政機関	倉敷市役所
消防	倉敷消防署
その他	倉敷中央病院
	倉敷環境保健所
	倉敷児童相談所
	倉敷公民館
国・県の施設	倉敷税務署
	倉敷簡易裁判所
	倉敷労働基準監督署
	倉敷労働会館
	岡山県倉敷地方振興局
	倉敷郵便局
	本町郵便局
教育機関	岡山大学資源生物科学研究所
	倉敷青陵高等学校
	万寿小学校
	倉敷東小学校
	倉敷西小学校

施設種類	施設名称
観光施設	美観地区
	バス専用駐車場
	観光休憩所
	大原美術館別館
	新溪園
	公衆トイレ
イラスト表現するもの	倉敷市芸文館・大山名人記念館
	倉敷市民会館
	市立美術館
	中央図書館
	自然史博物館
	倉敷考古館
	大原美術館
	倉敷館
	倉敷民芸館
	倉敷アイビースクエア
	旧大原家住宅
	大橋家住宅
	本町（古い町並み）
	東町（古い町並み）
	阿智神社
	本栄寺
	イラスト表示する施設については、観光関係部局と調整し、適宜採用を検討します

■周辺案内マップの掲載施設２（救急告示病院）

病院名	住所
倉敷市立児島市民病院	倉敷市児島駅前 2 丁目 39 番地
児島中央病院	倉敷市児島小川町 3685 番地
児島聖康病院	倉敷市児島下の町 10 丁目 374 番地
川崎医科大学附属病院	倉敷市松島 577 番地
倉敷中央病院	倉敷市美和 1 丁目 1 番 1 号
松田病院	倉敷市鶴形 1 丁目 3 番 10 号
しげい病院	倉敷市幸町 2 番 30 号
倉敷第一病院	倉敷市老松町 5 丁目 3-10
倉敷平成病院	倉敷市老松町 4 丁目 3-38
倉敷記念病院	倉敷市中島 831 番地
倉敷成人病センター	倉敷市白楽町 250 番地
水島協同病院	倉敷市水島南春日町 1 番 1 号
水島中央病院	倉敷市水島青葉町 4-5
水島第一病院	倉敷市神田 2-3-33
倉敷廣済病院	倉敷市東塚 5 丁目 4 番 16 号
玉島中央病院	倉敷市玉島中央町 1-4-8
玉島第一病院	倉敷市玉島 1334-1
玉島協同病院	倉敷市玉島柏島 5417
藤沢脳神経外科病院	倉敷市玉島勇崎 587

■周辺案内マップの掲載施設３（宿泊施設）

施設名
倉敷アイビースクエア
倉敷国際ホテル
倉敷ステーションホテル
倉敷ターミナルホテル
東横イン倉敷駅南口
ビジネスイン倉敷
ホテル倉敷
ホテルグレイス倉敷
ホテル 330 グランデ倉敷
ホテルサンプラザ倉敷
ホテル日航倉敷
ホテル 1 - 2 - 3 倉敷
くらしき石山花壇

【参考：周辺案内マップの情報掲載基準（倉敷市公共サインガイドラインより）】

施設などの分類		掲載基準	掲載表現		
			色彩表現	ピクトグラム・マーク	名称表示
地勢名等	海、港湾	主要なもの	○		○
	河川、水路	主要なもの	○		○
	山・丘陵	標高100m以上のもの、または観光要素があるもの	○		○
地名	市町村				○
	町丁目				○
	地区名	美観地区など特記すべき地区名、主要な商店街			○
交通機関	道路	高速道路、有料道路、国道、その他主要な市道	○	○国道のみ	主要道路のみ
	主要交差点、インターチェンジ	地域で特に重要と考えられる交差点等	○交差点は信号マーク表示		○
	橋梁	主要河川に架かるもの	○		○
	鉄道路線	原則としてすべて	○	○踏切	○
	鉄道駅	原則としてすべて	○	○	○
	至る表示	次の駅、もしくは代表的な駅名によって表示			○
	駐車場	公営駐車場、駐車場誘導案内システムの対象になっているもの	○	○	
	その他	バス停 バスターミナル、タクシー乗り場		○ ○	 ○
公共施設	公園緑地	近隣公園以上 街区公園は地図縮尺により色彩表現	○		（近隣公園以上）
	広域避難所	全て表示する	○	○	○
	国・県の施設	広く一般に利用されるもの（警察、郵便局、裁判所など）、観光要素が強いものなど	○	○	○
	市の施設	広く一般に利用されるもの（保育園は対象外）、観光要素が強いものなど	○	○	○
公共的施設	公益施設	電力、電話、ガス関係施設など	○		主要なもの
	郵便局	全て表示する	○	○	主要なもの
	民間医療施設	緊急告示病院	○	○	○
	民間教育施設	小学校、高等学校、短期大学、大学（幼稚園は対象外）	○		○
民間施設	文化・スポーツ施設	広く一般に利用される主要なもの	○	全国統一ピクト等で対応可能なもの	○
	福祉施設	広く一般に利用される主要なもの	○		○
	大規模商業施設	第一種大型小売店舗	○	○	○
	宿泊施設	客室数50以上のものをマーク表現	○	○	ランドマークとなりうる主要施設のみ
	金融機関	支店以上をマーク表現		○（外貨両替に関してピクト表示）	
	寺社仏閣	市指定以上の文化財をもつもの、観光コンベンションビューロの案内図に掲載されているもの		○	○
	その他	観光拠点については、観光コンベンションビューロの観光情報等に掲載された施設を基準とする	○	全国統一ピクト等で対応可能なもの	○
移動円滑化	案内誘導サイン	案内サインについては全て表示する		○	
	バリアフリー経路	特定経路・準特定経路は全て表示する	○		
	公衆トイレ	全て表示する		○	
	エレベータ	全て表示する		○	
	観光案内所	全て表示する		○	

(2) 表示面のデザイン

表示面の色指定、文字サイズ等については、「倉敷市公共サインガイドライン」の基準にもとづくデザインとします。

案内マップ

○色彩

はっきりとしたコントラストを確保するとともに、色覚バリアフリーを考慮し配色とします。(p.38 に色彩表)

○文字サイズ

施設名・丁目名は文字高さ 10 mm、英語 6 mm とします。

○ピクトグラム・マーク

施設表示に使用するピクトグラムは全国統一 JIS ピクトグラムとします。また、現在案内マップに使用されている建物イラストは、以前から市の観光パンフレット等で使用され、長期にわたり市民や来訪者に親しまれてきたため、引き続き施設マークとして使用することとします。

【案内マップに表示する建物イラスト】



大原美術館



大橋家住宅



倉敷民芸館



倉敷市民会館



倉敷市芸文館
大山名人記念館



倉敷考古館



倉敷館



倉敷チボリ公園



倉敷アイビースクエア



自然史博物館



市立美術館



旧大原家住宅



本町(古い町並み)



東町(古い町並み)



中央図書館



阿智神社

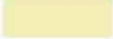
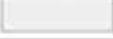
○その他の表示

サインの顕在性を高めるため、表示面の最上部にインフォメーションマークと現在地を示す地点名称を表示します。また、高齢者や障害者が安心して移動できるためのめやすとして、バリアフリー経路を表示します。



図 案内マップ表示

■案内マップの使用色

区分	施設名	色彩例	色 (参考) CMYK値	枠線 (参考) CMYK値
緑地	森		Pantone : 376C C60 M0 Y100 K0	なし
	公園・緑地		Pantone : 390C C40 M0 Y100 K0	なし
	緑道		Pantone : 5865C C0 M0 Y30 K10	なし
	水域・湖・池・河川		Pantone : 292C C50 M10 Y0 K0	なし
施設	敷地		Pantone : 467 C10 M20 Y40 K0	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.1mm C0 M0 Y0 K72
	建物		Pantone : Warm Gray 1C C0 M0 Y0 K10	なし
	駅舎・高架等		Pantone : Warm Gray 1C C0 M0 Y0 K10	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
	駐車場		Pantone : 420C C0 M0 Y0 K25	なし
	鉄道		Pantone : Warm Gray 4C C0 M0 Y0 K25	なし
	歩道橋・ペDESTリアンデッキ		Pantone : Yellow C C0 M0 Y100 K0	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
	地下道出入口		Pantone : 420C C0 M0 Y0 K25	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
道	一般道		C0 M0 Y0 K0	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
	高速道路等		Pantone : Warm Gray 4C C30 M30 Y30 K0	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
	地下道		C0 M0 Y0 K0	Pantone : Cool Gray 10C 線幅 0.2mm C0 M0 Y0 K72
鉄軌道	鉄道軌道		Pantone : Cool Gray 9C 線幅 3mm C0 M0 Y0 K65	
バリアフ リー経路	バリアフリー経路		Pantone : RED 032 C 線幅 3mm C0 M100 Y100 K0	
名称	名称表記		Pantone : Process Black C0 M0 Y0 K100	なし
	住所・番地		Pantone : 217-3 C C70 M30 Y0 K35	なし
表記	現在地		Pantone : RED 032 C C0 M100 Y100 K0	なし
	ピクトグラム (安全色青)		Pantone : 286 C 派近似 C100 M60 Y10 K0	なし
	ピクトグラム 2		Pantone : Process Black C0 M0 Y0 K100	なし
その他	アクセント色		Pantone : 810 2X C C0 M20 Y90 K0	なし
	ベース色		Pantone : 627 C C80 M0 Y50 K90	なし

* CMYK 値

CMYK は色の表現法の一つで、藍色 (Cyan)、深紅色 (Magenta)、黄色 (Yellow) と色調 (Key tone) から頭文字 1 字を取ったもの。一般的にカラー印刷を想定したデータ作成で使用されます。

誘導サイン表示面

○文字サイズ

主要誘導拠点の表示については、最大 15m の視距離を想定して、文字高さ 60 mm、英語表記 48 mmとします。その他の誘導拠点については、従来の文字サイズと同じ 40 mmで表示します。

○その他の表示情報

サインの顕在性を高めるため、表示面の最上部にインフォメーションマークと現在地を示す地点名称を表示します。

○デザイン・レイアウト

サイン形状及び色彩のトーンは景観に配慮したものとしませんが、アクセントとして黄色を使うことで、歩行者から表示面を見つけやすくします。



図 誘導サイン表示面

(3) 美観地区のサイン施設整備

美観地区のサインの現状

美観地区内の公共サインは、案内サインが3基(東町の既存石造サインと、本体が木製のサイン施設2基)設置されています。また、誘導サインは石造道標型のサインが整備されています。



図 美観地区内の既存サイン施設
(左：道標型誘導サイン、右：案内サイン)

美観地区のサイン整備

J R 倉敷駅方面から美観地区までの誘導をみると、商店街を通るルートから倉敷川畔までの誘導機能が不十分なため、道に迷う人が多くなっています。そのため、倉敷公民館周辺から倉敷川畔方面への誘導機能の強化を図り、倉敷公民館に顕在性の高い誘導サインを整備します。

原則的に、美観地区内での施設整備においては、景観法に基づく条例等によりデザイン面で強い制約があります。しかし、夜間照明や音声案内等、観光客のニーズやユニバーサルデザインに対応できる機能とするため、景観に配慮したデザイン・材質について関連機関等と十分調整を図ったうえで、美観地区にふさわしい施設デザインを決定するものとします。

4．関連施設整備

(1) 倉敷駅前地下連絡道の案内

JR 倉敷駅前の地下連絡道は、倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画で設定した誘導ルートではありませんが、駅前広場1階から美観地区や中央病院に向かう人々にとって、行動起点から誘導拠点へ移動するための経路となっています。

地下連絡道については、地上での誘導案内情報が不足しているため、現在は非常に利用しにくい状況にあります。そのため、本計画における誘導ルートを補完する経路として位置づけ、倉敷市公共サインガイドラインを踏まえたサイン表示を整備します。

地下連絡道の入口表示



地下連絡道から地上への案内図表示



地下連絡道出入口の番号表示（周辺案内図部分）



（２）バリアフリー対応や移動円滑化のための設備の位置サイン

本計画による誘導対象の施設として、誘導サイン表示に「公衆トイレ」と記載することはありませんが、対象地区内のすべての案内サインにおいて、公衆トイレは全箇所表示します。また、駅前デッキから地上階へ移動するためのエレベータ等、バリアフリー関連の設備についても、同様に全箇所表示します。

施設の位置サインについては、市が設置するものと公共交通機関等が設置するものがありますが、どちらの場合も「倉敷市公共サインガイドライン」に基づき整備することを基本とし、サイズやデザイン、設置位置等の基準を満たしていないものについては、順次改善を進めることとします。

（３）計画対象区域内における誘導ルート以外での施設整備

一番街周辺の地区など、本計画で誘導ルートが設定されていない経路については、今後周辺の市街地整備事業等と調整しつつ、住民ニーズに応じて、誘導案内のためのサイン施設を整備することとします。

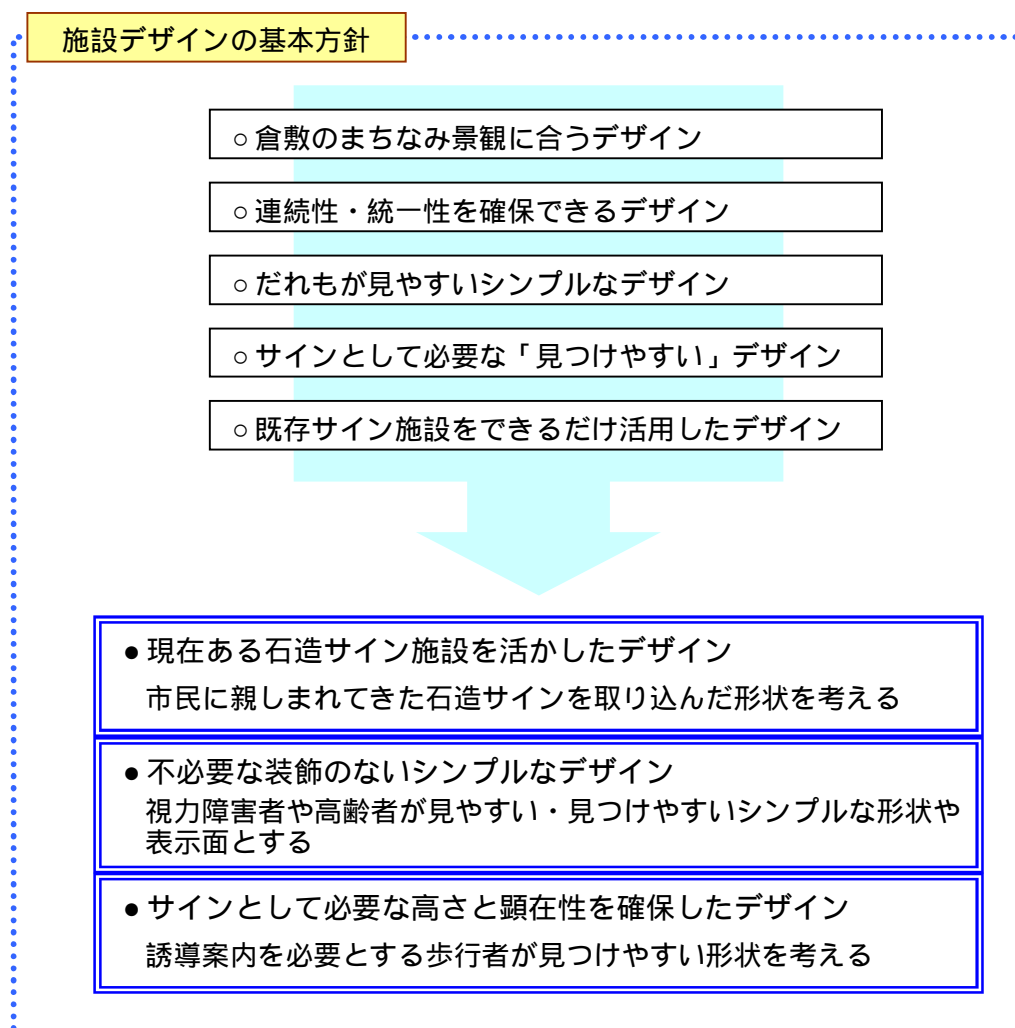
サイン配置については、行動起点及び誘導目的地点と誘導すべき安全なルートを十分検討し、サイン施設と表示面のデザイン等については、倉敷市公共サインガイドラインに基づく整備を行うこととします。

．サイン施設整備計画

1．施設デザインの考え方

設置するサイン施設については、「倉敷市公共サインガイドライン」に基づき、高齢者や障害者等に配慮した表示面の高さや向きを確保できる形状とします。

案内サインと誘導サインは、道路（歩道）上に設置される施設のため、サインとして必要な機能を果たすとともに、まちなみになじむデザインや色について、配慮する必要があります。そのため、倉敷駅周辺地区の地域特性等を踏まえ、サインのデザインに関する基本方針を以下のとおり設定します。



2．案内サイン

(1) 行動起点・誘導拠点のサイン（総合案内サイン）

JR 倉敷駅前や美観地区内など、多くの来訪者にとって詳しい誘導案内が必要と思われる地点では、周辺案内地図以外に様々な誘導案内情報を表示した、総合案内サイン施設を整備します。総合案内サインは、だれも見やすいように、垂直パネルの施設デザインとし、車いす利用者や高齢者、子ども等の利用しやすい高さや、近づいて利用できるためのゆとりやすき間に配慮して設置します。

音声案内、点字表示

総合案内サインでは、表示による誘導案内だけでなく、視覚に障害のある人のために音声及び点字による誘導案内機能を配慮します。

音声案内は、メーカーにより多様なシステムが混在しており、今後は官庁主導で規格の統一や共用型携帯端末等も普及することが予想されますが、現在はだれでも利用できるよう、専用端末や携帯受信機等を使用しないシステムの方向とします。

主な音声サインの種類としては、サインの存在を知らせる誘導鈴タイプ、音声による地点や経路用のアナウンスタイプの2つがあります。重要な誘導案内ポイントである行動起点や誘導拠点においては、誘導案内サインが設置されていることを知らせる機能も必要であるため、総合案内サインには上の2つの種類の音声サインを検討します。

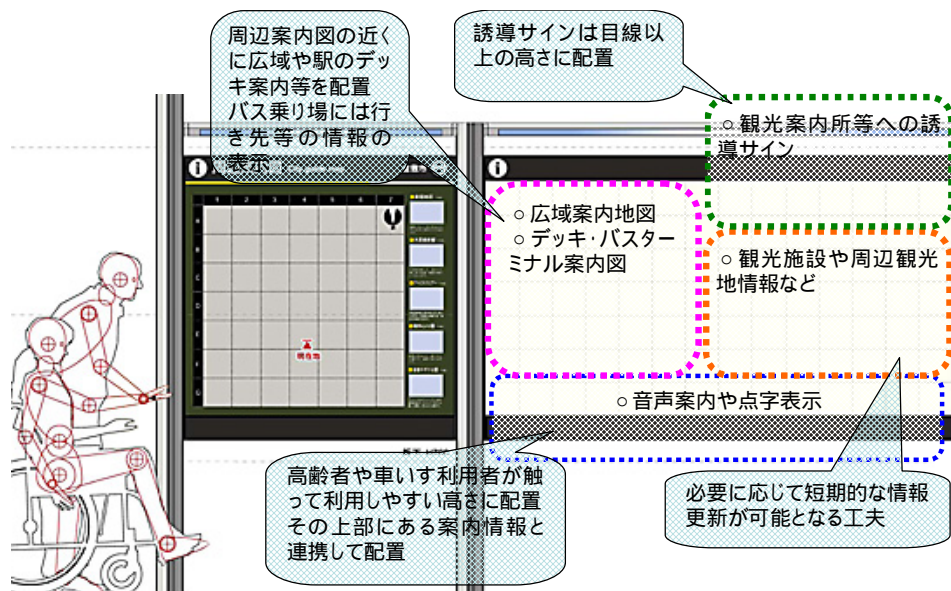
のアナウンスタイプの音声サインは、サインパネルに設置されたスイッチ（ボタン）を押すと案内アナウンスが流れるタイプを検討します。

その他求められる機能と配置

一般的に総合案内サインでは、周辺案内マップと併せて広域案内図が設置されることが多く、その他、周辺の主要施設への誘導や、駅前には公共交通等の情報提供機能が整備されることもあります。

倉敷駅前総合案内サインについては、来訪者アンケート調査等での課題を踏まえ、住民によるワークショップで必要な機能を検討しました。これら住民ニーズを十分考慮し、総合案内サインの機能、配置を決定することとします。

【参考】総合案内サイン機能に関するワークショップ意見のまとめ



倉敷駅前総合案内サインの機能検討

総合案内サインには多様な機能が求められますが、サイン施設の適切な大きさやデザイン、設置箇所の周辺状況や歩行者動線等を考慮し、機能の選択と配置設計を行う必要があります。特に、不特定多数の来訪者にとって重要な情報拠点である駅前の総合案内サインでは、利用者のニーズだけでなく施設や情報の維持管理、市の玄関口として、デザイン面からの視点からも検討が必要です。



図 倉敷駅南総合案内サイン施設イメージ

(2) 誘導拠点・分岐点のサイン

誘導目的である施設周辺や、分岐点である主要交差点では、総合案内サインと統一的なデザインの案内サインを設置します。誘導拠点では、必要に応じて誘導サインを併せて整備します。



図 案内サイン施設

既存の石造サインが設置された地点では、スラント形状（表面の傾斜部分）の案内マップを新規作成するとともに、サインの顕在性を高めるため、誘導サインパネルを併設します。



図 既存サイン施設を活用した案内サイン施設

3. 誘導サイン

(1) 既存サイン施設を活用する箇所でのサイン

既存サイン施設は施設高さ・誘導サイン表示面ともに低く、歩行者からの視認性が低いため、既存サインの隣に、新規にパネル型誘導サインを整備します。

既存サイン本体は、表示面をスラント形式(傾斜のついた表示面)に改良し、設置地点からJR倉敷駅及び誘導目的地までの案内マップ(簡易表示)を設置します。



図 既存誘導サイン施設

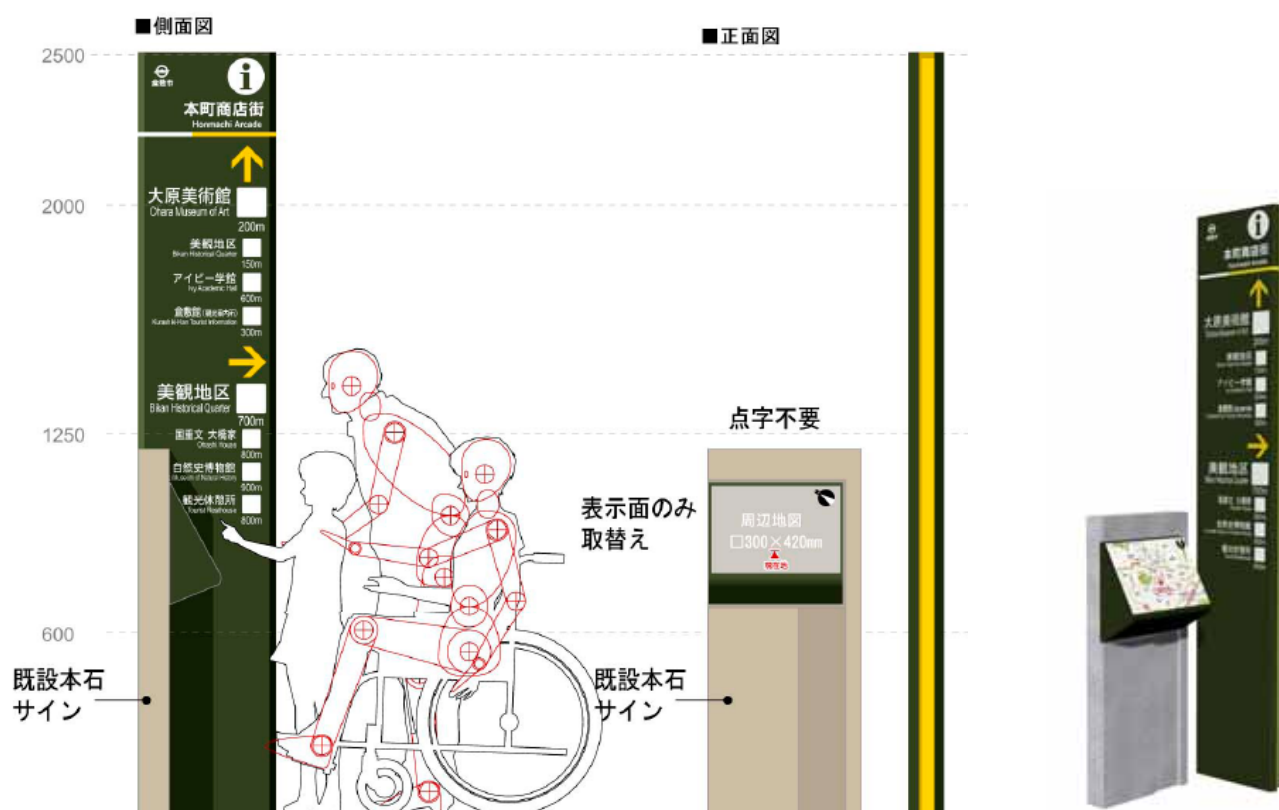


図 既存サイン施設を活用した誘導サイン施設

(2) 施設を新設する箇所でのサイン

現在誘導サインが設置されていない連絡点では、既存施設の隣に設置されるパネル型誘導サイン施設に準じたデザインの誘導サイン施設を整備します。

歩行者の進行方向に対して垂直の誘導が必要な場所では、「タイプA」(歩道に対して垂直に表示面が設置される)を整備します。

歩行者の進行方向に対して平行の誘導のみの場合、もしくは歩道幅員が狭い場所等では、「タイプB」(歩道に対して平行に表示面が設置される)を整備します。

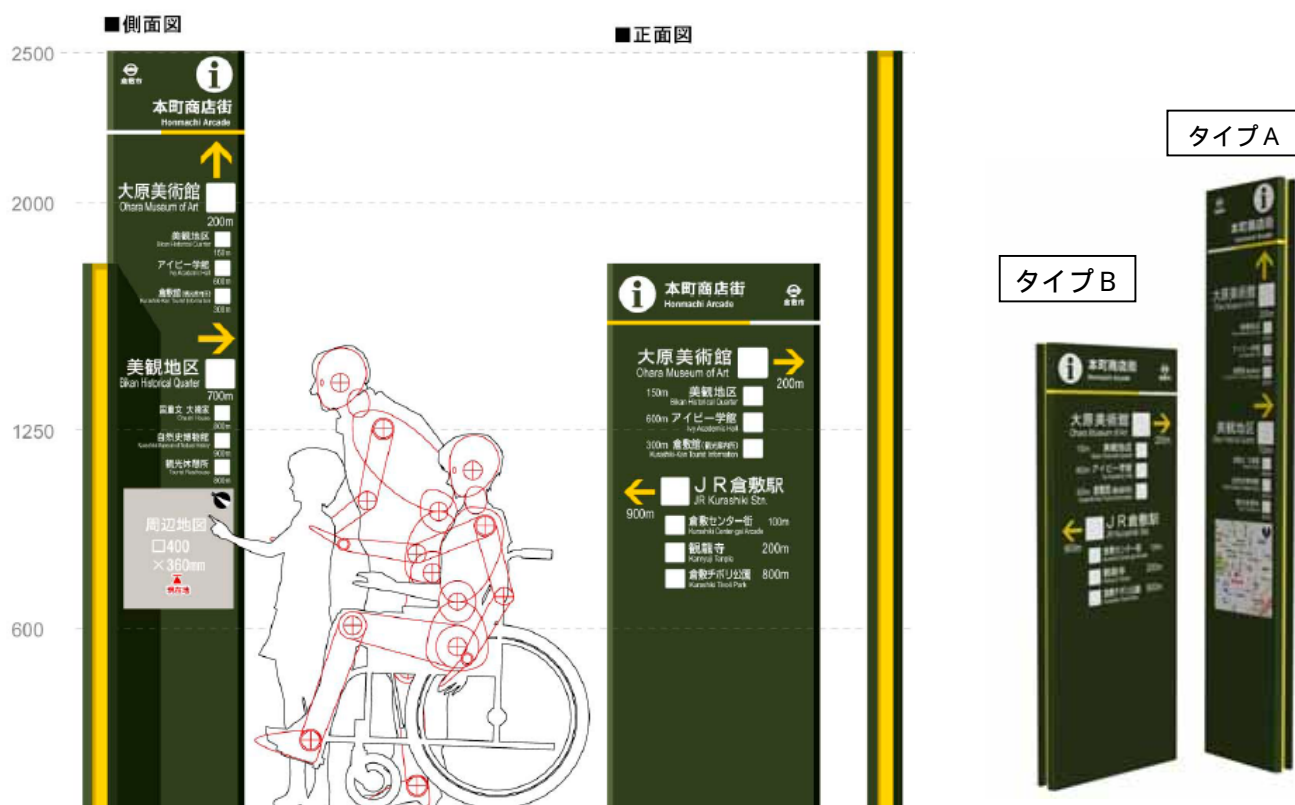


図 新設する場合の誘導サイン施設

(3) 商店街など目線の高さでは表示が見つけない箇所

商店街など、人通りが多く、看板や道路上の設置物も多くて目線の高さでは表示が見つけない場所などでは、ポールに矢羽根型の誘導表示がついたサイン施設を設置します。矢羽根型標識の方向は、誘導すべき経路と同方向になるよう設置できるため、実際の道路形状に即したわかりやすい誘導が可能です。

誘導表示を見る場合、表示板を見上げるかたちになりますが、目線の高さでの情報表示が必要な場合は、ポールに補助板を設置することも可能です。その場合はポールから出っ張る部分の安全対策に十分配慮した施工を行うこととします。

なお、アーケードの中に誘導サインを設置する場合は、表示面の地色が暗いとサイン表示面全体が見つけない場合があります。その場合は、文字やピクトグラムの大さを拡大するなど、表示内容を見やすくするための工夫が必要です。また、商店等の建物に近接して設置する場合は、看板や照明等の位置により高さを調整することも必要になってきます。



写真 現状の誘導サイン

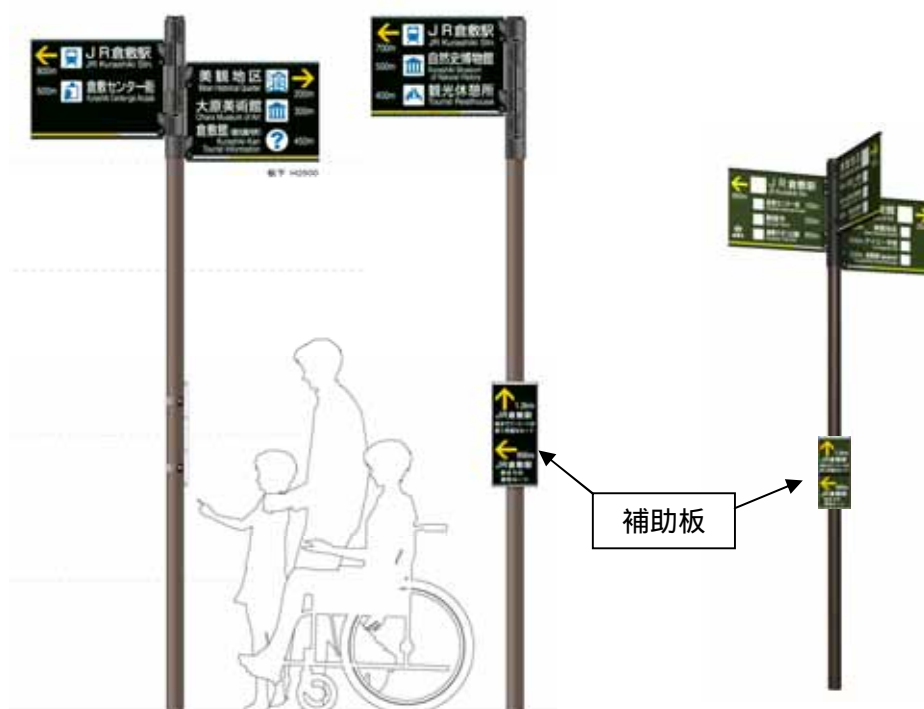


図 矢羽根型の誘導サイン施設

視覚障害者や高齢者など、高い位置の表示が見えにくい人や、視線が低い人にとっては、路面標示による誘導案内も有効な方法です。路面標示の場合も矢羽根型標識と同じく、誘導の方向にあわせた表示が可能となります。

路面標示設置にあたっては、サイン表示が隠れるような障害物（植栽鉢や商品ケース、ベンチ等）を置かないことや、立ち止まってサインを見る人が他の通行者の動線と接触しないような配置等、十分な配慮が必要です。



図 路面標示のデザイン例

・サインのメンテナンス

だれにとっても分かりやすく安全に移動できるためのまちづくりの道具としてサインが役立つためには、既に設置されているサインの見直し点検作業を行い、継続的に手入れすることが必要です。あわせて、永続的に地域内のサインがお互いの情報を補完しあい、利用者の移動円滑化を促すよう活用されるためには、表示すべき内容やメンテナンスについて適切に管理できるように統括した体制づくりが必要です。

(1) 本体施設のメンテナンス

【本体メンテナンス】

○清掃

年に2～3回程度、本体の清掃を行う

○保守・点検

本体の状況を以下のような項目によって点検し、適切な方法により対処する

- ・ガタツキ（ボルトの締め付けの状況や、全体のゆがみ等のチェック）
- ・破損状況（本体についた傷などの状態をチェック）
- ・表面の状態（表面の錆や塗装部分の退色等をチェック）

保守・点検は清掃と同時に行う

既存の倉敷公共サイン本体の大部分は本石であり、年月を経るにつれ味わい深いものとなるよう意図されているため、本石についてはメンテナンスフリーとして考えます。その他は耐久性の高いアルミニウム等を使用しています。また、塗装も耐食性に優れ耐用年数が高い合成樹脂エマルジョンペイント塗りを採用するため、汚れやほこりは定期的に水洗いと乾拭きを行えば十分です。目立つ汚れ、らくがき、いたずら等で美観が損なわれた場合は、以下の手順で清掃します。

1．通常清掃：水洗いと乾拭き

（強くこすると傷つく場合があるので注意）

2．ひどい汚れの清掃：家庭用中性洗剤を薄めて使用、その後水洗いと乾拭き

（泥・土等は事前に水洗いを行い除去しておく）

3．マジック等の落書きの清掃：ペイントうすめ液等で除去

（ペイントうすめ液使用前に、問題がないか目立たない場所で確認してから使用）

汚れやいたずらに対して、できるだけ即時に対応するために、市民や事業者、来訪者等からの連絡も重要なメンテナンス情報となります。サイン本体に管理番号、管理主体名、連絡先を記載することにより、定期点検時期以外のメンテナンスに対応することとします

【参考：維持管理点検シート例】

■ 個別施設点検シート

管理施設 番号	設置道路名	地点名	サイン種別	施設構造	施工年月
(例)	駅前霞橋古城池線	美観地区前	誘導サイン	万成石・アルミ複合板/アクリル焼付塗装 亜鉛めっき鋼管+静電粉体塗装	08.10.15
点検箇所		変状内容		業務対策	損傷判定
	本石				
	誘導パネル本体				
	誘導サイン表示				
	支柱				
	案内マップ表面				
	案内マップ裏面				
	基礎周辺				
	音声案内パネル				
	点字表記				
	その他				

写真1	写真2	写真3

■ 点検概要一覧表

[illegible]

(2) 掲載情報の見直し

地図情報は定期的に管理することとし、見直しは、原則単年度で行う短期メンテナンスと、約5年ごとのサイクルで行う長期メンテナンスの2段階で行います。

データ管理は市役所内の特定の一部署において受け持つこととし、情報管理はすべてデジタルデータで行います。

○管理台帳の作成

サインに掲載されている情報は、サイン管理台帳データによる維持管理を行います。

サイン管理台帳データはエクセル形式で作成し、情報更新担当部署が閲覧・修正できるよう、共有のオンラインシステム上に設置します。

○情報変更に対する対応

短期：新設の道路や施設など、新規の情報を貼り込み形式で表示します。

長期：全ての掲載情報を見直し、必要があればマップの全面貼り替えを行います。

サイン表示面に掲載されている施設等の情報の更新は、施設の名称及び位置の変更について修正するのはもちろんのこと、倉敷市公共サインガイドラインの施設掲載基準を把握した上で、掲載基準から外れる、もしくは新たに掲載基準を満たす施設についてもデータ修正を行うこととします。

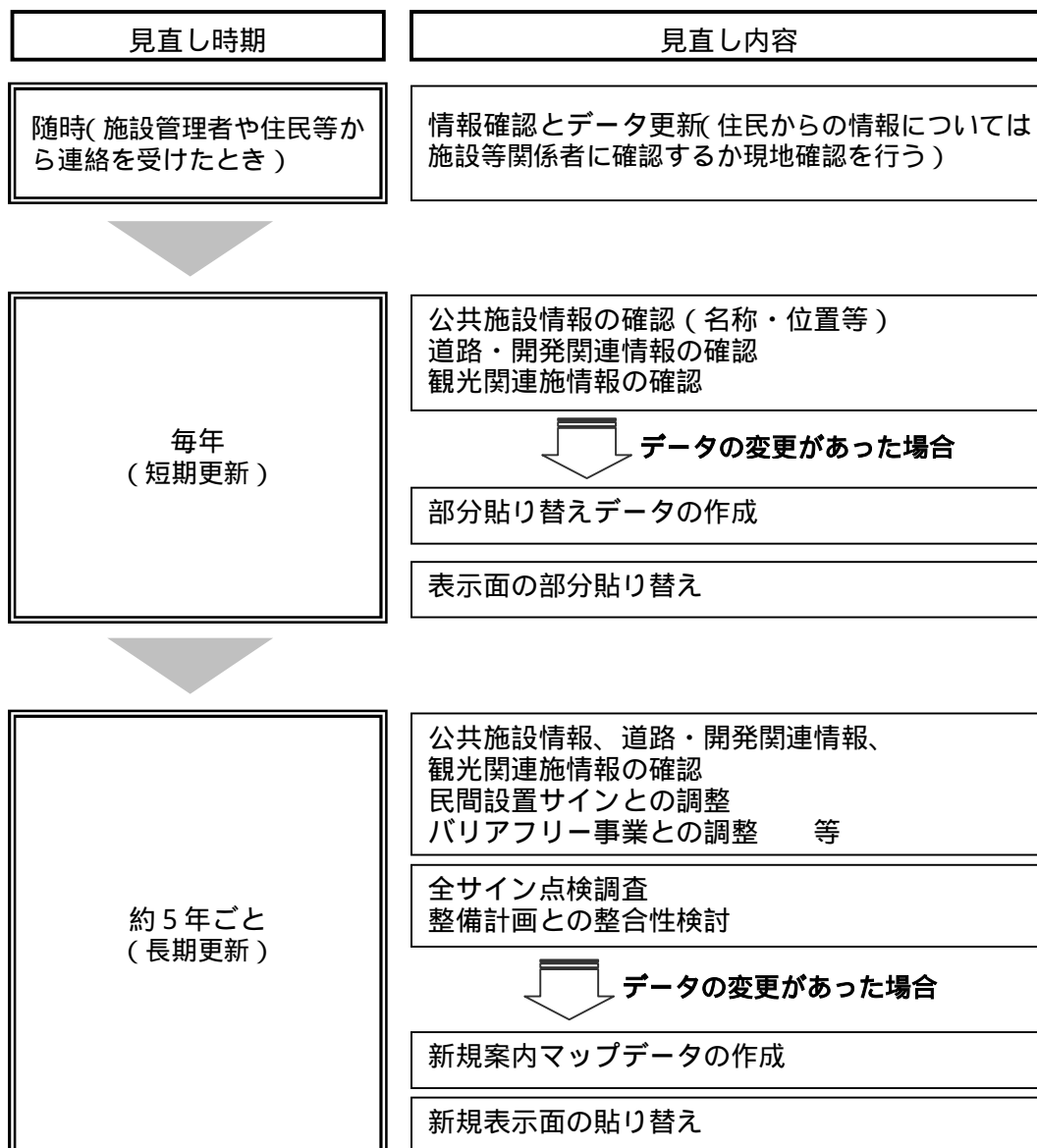


図 案内マップ見直しのサイクル

(3) サイン管理体制

公共サイン施設の通常の本体メンテナンスに関しては、道路附属施設として倉敷市道路管理者が維持管理を行います。また、美観地区内のサインについては、重要伝統的建造物群保存地区内であることから、地区内のその他施設と同じく倉敷市観光部局が維持管理を担当します。

サインの役割として最も重要なのは、まちの現状に即した正確な誘導案内情報の提供です。そのため、情報内容に関する総合的な視点からの見直しとメンテナンスについては、単独の担当部署ではなく、関係各課及び関連機関等との連携による管理体制を構築し、対象地区内全体の情報見直しを行います。また、倉敷市公共サインガイドラインや配置計画との整合性を点検する必要があるため、庁内の関係部署によるプロジェクトチームを組織し、全サイン点検調査と現状と計画との整合性の検証を実施します。

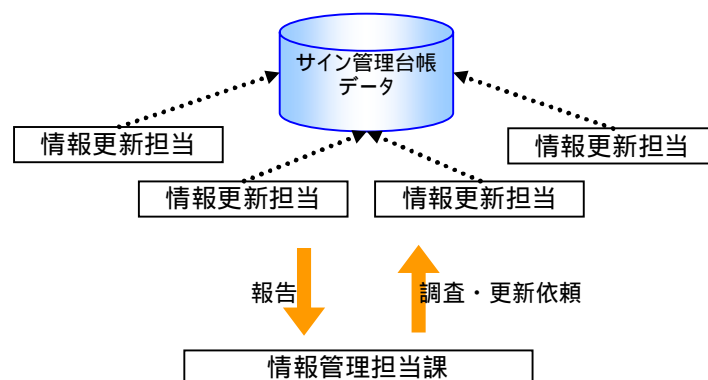


図 サイン掲載情報見直し（短期）の管理体制

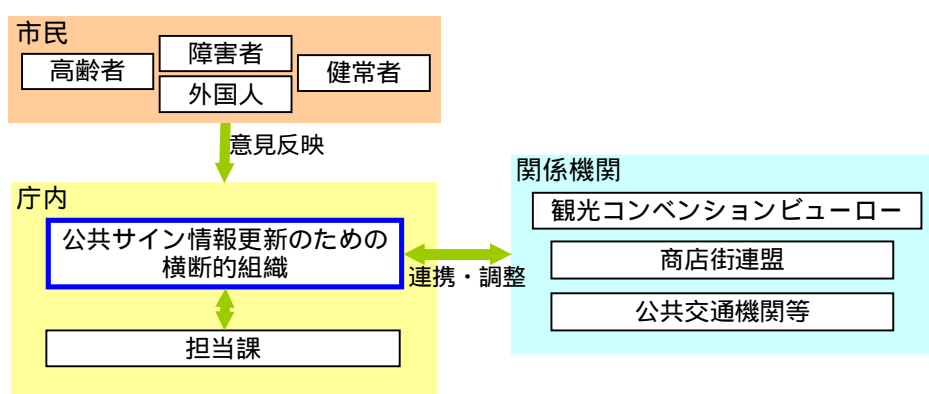


図 サイン掲載情報見直し（長期）のための管理体制

参 考 資 料

- 資料 1 : 用語解説
- 資料 2 : 倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画策フロー
- 資料 3 : 倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画検討会 委員名簿
- 資料 4 : ワークショップ概要
- 資料 5 : パブリックコメント

■資料 1：用語解説

(五十音順)

インフォメーションマーク

情報コーナー(誘導機能や周辺案内機能を有した施設等)を示すピクトグラム。
ほぼ全世界共通で使われている。



ガイドライン

ある物事に対する方針についての、大まかな指針や指標、ルールや基準などを
明らかに示し、それらを守った行動をするための具体的な方向性を示すもの。

コントラスト

絵画や写真などの画像の、明暗の差や色彩の対比のこと。

サインシステム

方向や位置、注意などを指し示すサインを体系的に配置すること。駅や集客施設、観光地などでは、混乱を避け来訪者の行動を導くために、動線を配慮したサインシステムづくりが重要となる。

色覚バリアフリー

視覚情報を表示するにあたり、色盲、色弱(色覚障害)と称される、ある特定の配色が区別しにくい人々が不便を感じないように、色づかいやデザイン等に配慮すること。カラーバリアフリーとも言う。

情報メディア

情報の記録・伝達・保管のために用いられる物や装置。(広義では、ある情報が発信されてから、受け手が情報を受け取るまでのあいだをつなぐ媒体)主にテレビ・ラジオ・雑誌・新聞・インターネットや携帯電話等を指すことが多い。

特定経路・準特定経路

交通バリアフリー法で定める構造基準に適合する整備を進めるために選定された、鉄道駅と公共施設等を結ぶ主要なアクセス道路。準特定経路は、特定経路より長期的な視野のもと、バリアフリー化による日常生活の向上を図ることが求められている。

パブリックコメント

行政が様々な施策や計画を策定するにあたって、事前に案を示し、その案について広く市民から意見や情報を募集すること。寄せられた意見等を考慮して計画を決定するとともに、その意見等に対する考え方等もあわせて公表する。

ピクトグラム

「絵文字」「絵ことば」と呼ばれる図記号。何らかの情報や注意を示すために示される視覚表示の一つ。「ピクト」と省略して呼ばれることもある。

本計画書でも「ピクトグラム」と「ピクト」を両方使用しています。

ホスピタリティ

親切にもてなすこと、歓待を意味することば。特に観光業界などにおけるサービスのよさと心遣いを評価する際に用いられる。

メンテナンス

施設やシステムが正常な機能を持ち続けるための保守・点検作業のこと。

ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」を意味し、文化・言語の違い、年齢や障害の有無にかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるように考えられた施設・製品・情報等のデザインのこと。「UD」と省略して表記される場合もある。

レイアウト

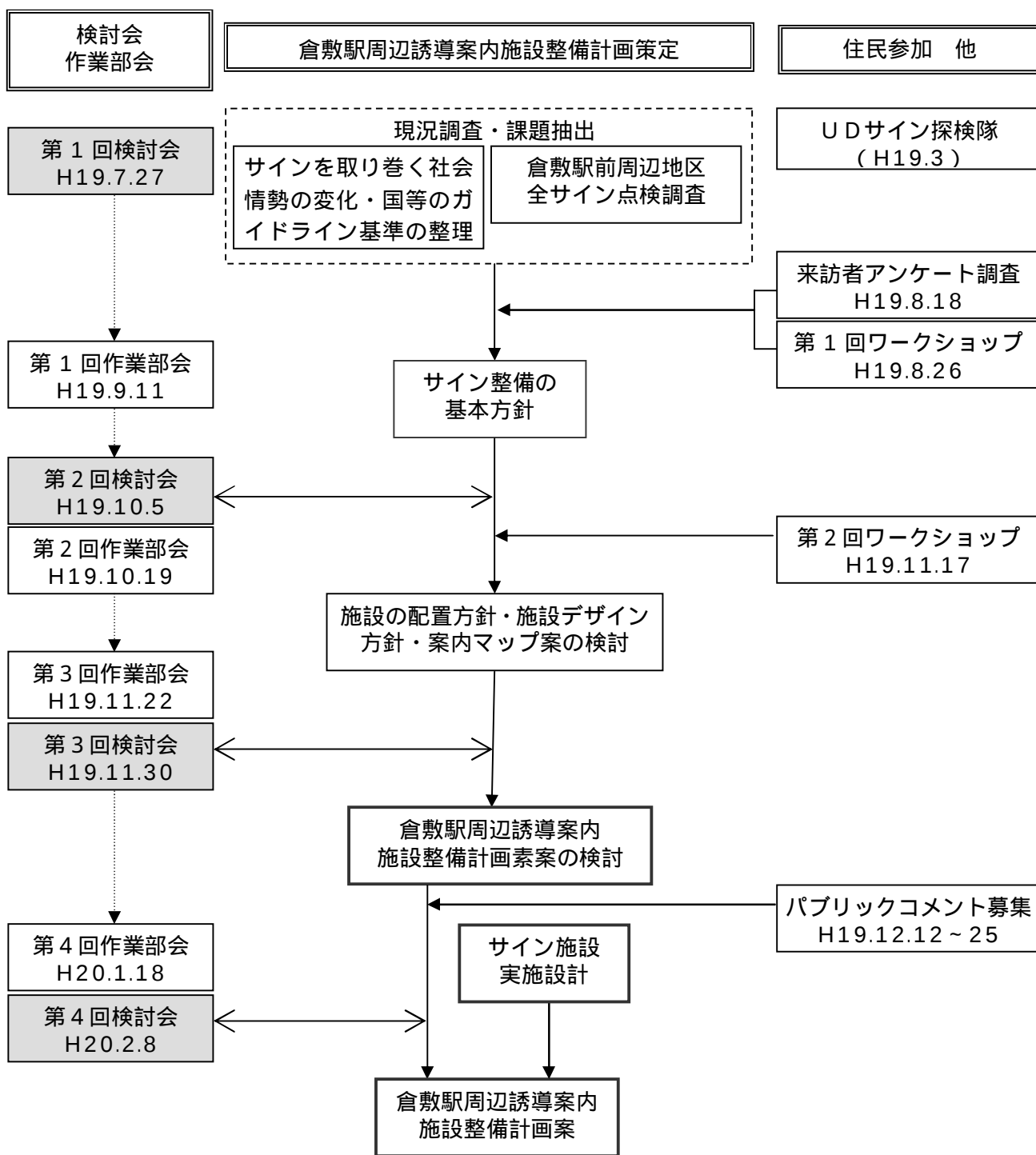
空間や平面に目的物の構成要素を配列すること。配列。配置。

特に印刷物等で文字・図版・色などを効果的に組み合わせること。また、その技術。

ワークショップ

元来「工房」「作業場」など、共同で何かを作る場所を意味することば。まちづくりにおいては、市民と行政と専門家などが対等な立場で意見を交換し、計画案を作成していく手法の一つ。「WS」と省略して表記される場合もある。

■資料2：倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画策フ口一



■資料３：倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画検討会 委員名簿

区分	氏名	団体・職名等
学識経験者	青木 陸祐	川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科准教授
市民代表	古城デイジー	
	奥田 茂	
各種団体等代表者	松尾居津江	倉敷地区老人クラブ連合会理事
	白木 三敬	倉敷市身体障害者福祉協会連合会副会長
	片岡美佐子	倉敷市視覚障害者協会会長
	小野 亀	(社) 倉敷観光コンベンションビューロー専務理事
	豊島 健二	倉敷商工会議所 観光委員会委員長
	森崎 昭三	倉敷商店街振興連盟事務局長
倉敷市	難波 洋二	経済局観光部長
	深尾 信悟	保健福祉局総括参事
	若林 修	建設局都市計画部長
アドバイザー	新田 保次	大阪大学大学院工学研究科教授

■資料4：ワークショップ概要

(1) 実施概要

【テーマ】

第1回：サインの現状視察、課題と対策についての意見交換

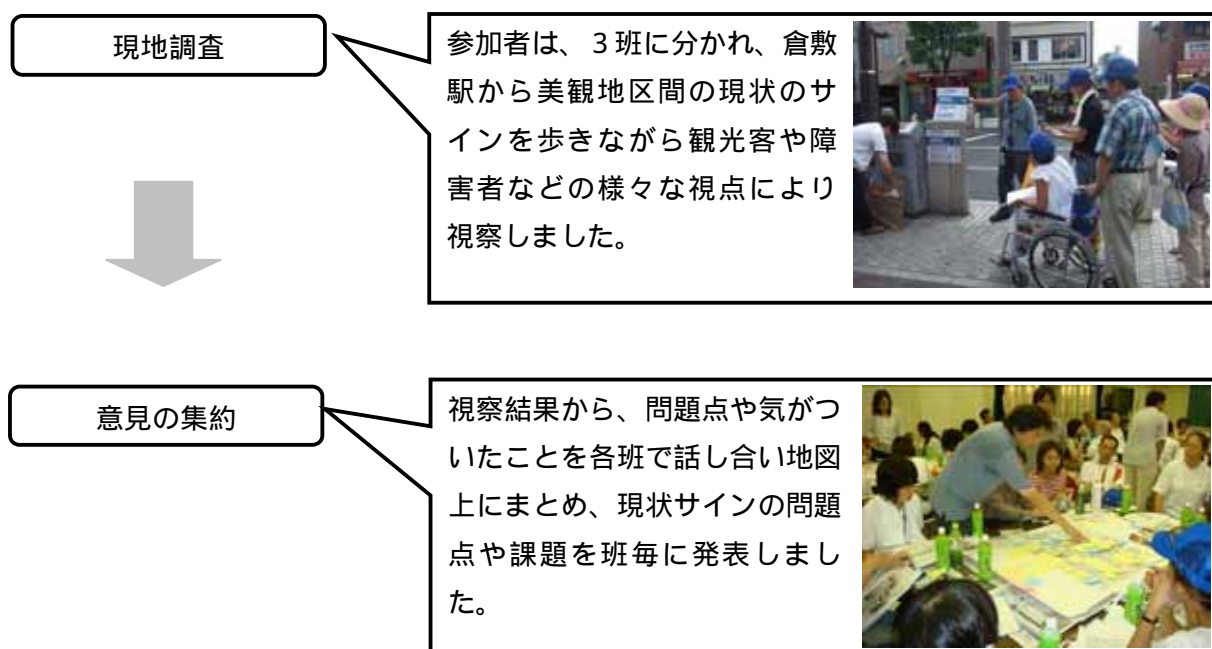
第2回：案内マップと駅前総合案内サインへの提案、誘導サイン施設案の現地検証

【開催日時・参加者数等】

	開催日時	開催場所	参加者
第1回	平成19年8月26日(日) 13:00～17:00	倉敷市男女共同参画センター 第1会議室 倉敷公民館第2会議室	高齢者4名、障害者3名、外国人3名を含む合計49名
第2回	平成19年11月17日(土) 13:00～16:40	倉敷市立美術館第2会議室	高齢者4名、障害者2名、外国人1名を含む合計34名

(2) 第1回ワークショップの概要

1) ワークショップの流れ



2) 現地サインの視察結果からの課題と対策の提案



意見の集約

サインの種別	問題点・課題の内容	対策の提案
案内マップ	地図の色が全体に薄く、内容が見にくい。	・地図のコントラストを上げる。
誘導サイン	設置高さに高いものや低いものがあり、視界にあってない。	・文字の高さは、人の背丈ぐらいが見やすい。 ・マンホールや路面にサインを表示する。
	文字が小さく見にくい。	・現在のものより文字を 1.5 倍程度大きくする。 ・白抜き文字にして見やすくする。
	誘導先が同じで、誘導ルートを 2 方向示してあるサインは、わからない。	・1つの誘導先には、1方向の誘導をする。 ・大きくはっきりとした矢印を付ける。

(2) 第2回ワークショップの概要

1) ワークショップの流れ

案内マップの提案

案内マップについて、現在設置されているものと、新しいデザインの案を見くらべながら、見やすさや表示内容について検討し改善点を提案しました。



総合案内サインの提案

駅前に設置する総合案内サインについて、観光客や障害者など利用する立場の視点で表示内容や表示位置を検討し、適切なサインを提案しました。



誘導サインの現地検証

美観地区入口交差点および商店街内三叉路交差点に仮に設置した誘導サイン案について、見やすさやわかりやすさの視点で現地検証を行いました。



2) ワークショップの結果（抜粋）

案内マップの提案

これまでの検討により事務局が作成した案内マップ案について、色彩・文字の大きさ・ピクト・地図の縮尺・外国語表記等の観点からの評価と改善すべき点として提案がありました。



案内マップの検討状況

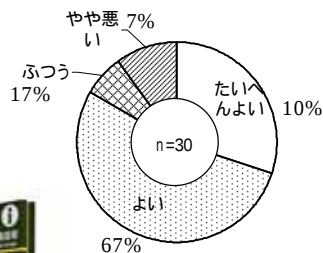
項目	評価および改善提案
色の見分け	コントラストが上がって色の違いがわかりやすくなった
文字の大きさ	現在の地図より文字が大きくなってわかりやすくなった
ピクトグラム	地図がはっきりした分、ピクトグラムや施設のマークはもっと目立つほうがよい
地図の縮尺	地図の縮尺が拡大して見やすくなったが、市民会館など案内が必要な施設は入れたほうがよい
外国語表記	凡例に4カ国語表示があれば、地図中は2カ国語による簡潔な表示としたほうがよい
情報の内容	駅周辺のマップでは、周辺地図とあわせてデッキや駅前広場の詳細な案内がほしい 美観地区区域の表現など観光客に配慮した情報が必要

誘導案内サイン現地検証

美観地区入口交差点および商店街内三叉路交差点において、誘導サインのデザイン案を設置し、見やすさやわかりやすさの視点で現地検証を実施しました。主な検証結果を以下に示します。

○美観地区交差点（パネル型誘導サインデザイン）

問 少し遠くからでも見つけることができますか



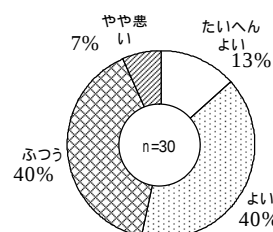
・高さがあり目に付きやすい
・現在位置表示が付いてわかりやすい。

・横長サインはわかりやすい。
・深緑と黄色のコントラストが良い。



○商店街内三叉路交差点（矢羽根型誘導サインデザイン）

問 方向や誘導先は正しく理解できますか



主な意見

・矢羽根型サインの採用は良い。
・アーケード内のため周りが暗く、サインの存在がわからない。
・文字を詰めすぎて外国語表記が見にくい。

改善案

・暗所での設置にあたっては文字やピクトの大きさなどを調整し見やすさに配慮する。
・全体に文字を大きくし、外国語表記を見やすくする。

■資料５：パブリックコメント

実施日：平成 18 年 12 月 12 日～12 月 25 日

実施方法：市の広報による意見募集のお知らせ、市役所及び各支所に設置閲覧、市ホームページ掲載

No	意見要旨	対 応
1	基本的な素案はこれでよいと思う	
2	総合案内サインの周辺案内図には、美観地区のエリアを表示すべきではないか	誘導案内のためのマップは、来訪者を誘導すべきポイントとそれに至る経路を分かりやすく示す必要があります。 観光客の目的地となるのは、法律で指定された美観地区（景観地区）エリアそのものではなく、倉敷川畔およびその周辺の街並みや施設であると考えられるため、案内マップに表示する項目としては美観地区のエリアではなく、具体的な施設や拠点にイラストをつけるなどして、他の部分より視線を集める工夫をしてみたい。
3	美観地区の電線地中化に関する表示を、地区内の案内サインに記載してはどうか	だれも見やすくわかりやすい案内サインとなるためには、本当に必要な情報をできるだけシンプルに表示することが重要です。 電線地中化表示や美観地区エリアの表示は、来訪者にとって興味深い情報だと思いますが、誘導案内のための情報としての重要度はやや低いと考えられるため、別の手法による情報提供を検討します。
4	市民及び観光客を対象とした誘導案内のための公共サインは、統一した表示デザインで整然とした整備を期待する	公共サインは、誘導経路上に統一されたデザインで計画的に配置されることが重要だと考えています。 整備計画案で提示させていただいた施設案をもとに、全ての誘導案内拠点において、ガイドラインに則した整備・表示を進めることにより、倉敷を訪問するすべての方々にとってシンプルで分かりやすい誘導案内を実現することを目指してみたい。
5	歩道は日常の生活道として機能が満足していれば来訪者にとっても恩恵があると言える。具体的には平坦な歩行面と、施設出入りに必要な移動空間の確保が必要である	市民および来訪者の円滑で快適な移動のための施策として、サイン整備を進めていきます。だれもが安全に移動するための歩道整備や道路空間の確保については、H18 年に策定した倉敷市交通バリアフリー基本構想に基づく、特定事業について順次整備を進めているところです。
6	歩道にサイン施設が整備されても、すべての人にとって十分な移動空間が確保される必要がある	公共サインガイドラインの設置位置に関する項で、「歩行者の円滑な移動を妨げない位置に配置」する旨を記載していますが、サイン施設が配置された場合でも、車いす利用者や介助者が必要な歩行者等の移動に必要な空間の確保への配慮についての記載を追加することとします。
7	簡潔で見やすいピクトグラムや記号による表記を統一すべき 美観地区のサインは周辺の景観に溶け込むよう配慮すべき	施設等の表示には、できるだけ全国統一ピクトグラムを使用し、シンプルで分かりやすい表示を目指します。 その他の記号についても、ユニバーサルデザインの観点から、外国人をはじめだれもが理解できるマークや、記号での表示を積極的に進めるよう検討します。 美観地区では景観法や条例により屋外に設置する施設へのデザイン的な規制が強く、美観地区外で整備するサインと同じデザインの施設を設置することは難しくなっています。 そのため、美観地区内の施設本体デザインに限っては、法律等に従い別途デザインを検討することとします。 ただし誘導案内の表示（マップ、誘導案内の文字や記号等）については、他のサインと同じく公共サインガイドラインに則した表示を行います。
8	案内マップに多目的トイレの位置表示をしてほしい	案内マップには、多目的トイレを含む全ての公衆トイレの位置をピクトグラムにより表示することとします。
9	公共サインガイドラインでは、民間施設のサインを規制対象に加えて、まちづくりの実効性を向上する必要がある	公共サインガイドラインでは、サイン設置における景観への配慮方針として、「不要な造形や過度な装飾を避けること」「連携によるサイン施設の集約」について、また「路上の障害物や広告物のデザイン」等について、民間事業者への協力依頼の必要性を記載しています。 なお、民間施設の掲示するサインを含む広告物等の規制については、「倉敷市屋外広告物条例」により大きさ等の規制対象が定められています。
10	施設デザインはよく出来ていると思うが、実際整備されたものはイメージの差が出る場合もあるのではないかな	昨年 11 月に実施したワークショップで、デザイン案の実物大モデルによる現地検証を行いました。 また、デザイン案の決定に向けて代表的な配置地点での見え方を確認するため、それらの検討を踏まえ、より見つけやすくまちの景観づくりに寄与する施設デザインとなるための調整を進めることとします。

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画



倉 敷 市

発行日

平成 2 0 年 3 月

発 行

倉敷市

編 集

倉敷市建設局都市計画部交通政策課

〒710-8565 倉敷市西中新田 640 番地

TEL086-426-3545/FAX086-421-1600

U R L

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/koutsu/index.html>
